



新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価



令和2年2月
岡山県総合教育センター

- ◆ 平成29年3月に公示された新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価について、考え方やそのポイントをまとめました。
- ◆ 各教科等で、「指導と評価の一体化」に向けて、どのように学習評価を行えばよいのかを確認して、改善に取り組みしましょう。

Let's try!

- I 学習評価の基本的な考え方
各教科等における学習評価の進め方
- II 小学校各教科・領域
- III 中学校各教科・領域
- IV 小・中学校共通
- V 指導要録の記載事項

冊子の見方・活用の仕方

各教科等の1ページ目

「学習評価で大切にしたいこと」では、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、今回の改訂で学習評価を行う際に、各教科等で注意しておくべき大切なことを紹介しています。

「評価の観点及びその趣旨」では、「指導と評価の一体化」を図るために、単元の評価規準を作成する際に必要となる各教科等の「評価の観点及びその趣旨」を掲載しています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成では、各教科等の特性に応じて、単元の評価規準の作成の手順や単元の評価規準例を紹介しています。

「3観点を評価する上での留意点」では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を実際に評価する上での留意点を端的に説明しています。

各教科等の2ページ目

「単元（題材）・本時における学習評価の進め方」では、「指導と評価の一体化」に向けて、どのようなことに気を付けて、単元の指導と評価の計画を立てればよいのかを事例を基に分かりやすく紹介しています。また、単元の評価規準を基に「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の評価場面を精選して位置付け、その進め方について、紹介しています。

例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況（B）の児童生徒の姿では、実際に授業を行うためには、単元の評価規準からより具体的な児童生徒の姿を設定して、指導と評価をすることが必要です。そのため参考例を紹介しています。

同校種の他教科等のページ

学習指導と評価を考える際、各教科等の内容を単に積み上げるのではなく、関連が深い教科等の内容と関連付けながら指導することが求められています。

小学校・中学校とも、関連する他教科等のページを確認し、内容を理解して、日々の学習指導と評価に生かしましょう。

異校種の同教科等のページ

小学校では、児童が今後中学校でどのような学びをしていくかを見通す必要があります。中学校では、生徒がこれまでに小学校でどのような学びをしてきたのかを踏まえる必要があります。

それぞれの教科等で関連する異校種のページを確認し、児童生徒の9年間の学びの全体像を踏まえて、日々の学習指導と評価に生かしましょう。

新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価

中学校国語科

学習評価で大切にしたいこと

指導する領域の明確化
「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を「思考・判断・表現」の1つの観点で評価します。単元の中でどの領域を重点的に指導するかを明確にして、授業をつくることが求められます。

指導事項を達成するための言語活動
単元の目標を達成するために、学習指導要領の言語活動を参考に、適切な言語活動を設定します。「活動だけで学びなさい」の状態にならないよう、活動のみで終わらず、指導事項の指導と評価を確実に行うことが必要です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本となる事項を捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、国語科においては基本的に「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	社会生活を必要とする場面において、その内容を正確に理解し適切に発信している。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を「思考・判断・表現」の1つの観点で評価します。単元の中でどの領域を重点的に指導するかを明確にして、授業をつくることが求められます。	言葉を通して積極的に人と関わり、思いやりのある発言や態度を示し、言葉がもたらす効果や意義を正しく理解し、言葉の力を適切に活用している。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記1～4の内容を全て含め、単元の目標や学習内容に応じて設定します。例の指導事項に重点を置いて、この観点で指導するの考えを述べることが必要です。

- I 読みの態度（読書活動）を基に、積極的に読む。
- II 自らの学習の調整（学習の計画を立て、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等）
- III 他2観点（知識・技能）（思考・判断・表現）において、重点的に指導する内容
- IV 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

Point: 具体的な言語活動とは例えば、自分の考えを文章にまとめたたり、伝え合ったたり等の言語活動です。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「思考力・判断力・表現力等」の指導の中で、例えば「読むこと」の学習を通して、読者の心情や意図を捉え、その内容を正確に理解し適切に発信している。また、自分の考えを文章にまとめたたり、伝え合ったたり等の言語活動を通して、言葉の力を適切に活用している。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を「思考・判断・表現」の1つの観点で評価します。単元の中でどの領域を重点的に指導するかを明確にして、授業をつくることが求められます。	主体的に設定した意見交流会等の言語活動を通しての学習への取組を評価します。例えば、発表会に向けて、自分の文章の表現を磨き直し修正している等、目的に沿って、読者の言語知識を生かそうとしている姿から見取ります。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画 ①と②のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ再掲で示しています。

- 1 指導に生かす評価**
授業の中で学びを要する状況を見取って目標達成に向けて支援します。例えば、「書くこと」では「考えの形成」「記述」「推敲」等を繰り返しながら、重点とする内容の定着を図ります。
- 2 3観点をバランスよく評価**
3観点を同時評価するわけではありません。国語科では、言語活動の流れを踏まえ、単元の評価規準を基に、それぞれの時期の評価規準を考案し、効果的な時間内で3観点を設定します。

(例) 第2学年「B 書くこと」の授業 ○ 単元名「読書体験学習」でお話になったお話を基に、お話を生かす評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①物語の筋きについて理解し、話や文章の中で使っている。	②「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめ、文章を整えている。	③話し強、表現の効果などを確かめて文章を整え、これまでの学習を生かして、お話を生かす評価を行う。

指導と評価の計画（全3時間）

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法	指導に生かす評価
1	お話を聞いた後、お話を基に書くという単元の規準を学ぶ。 お話を基に書く内容について確認してから、下書きを書く。	1	思	（思・推・表）（下書き） 読み手の立場に立って、表現の効果を確認し、下書きを修正している。	単元の前半では、「推敲」等の重点的に指導する内容を明確にして生徒と目標を共有します。授業の中で、様々な学びの状況を見取り、表現の効果を再確認させる等の支援を行います。
2	4人グループで下書きを読み合い、補助的コメントを記入し、コメントを付箋に記入していく。 付箋を基に、表現の効果について各自目標、自分の下書きを確認する。	主	○	【主】（読書・下書き） 具体的な事例の効果や自分の思いやりの意識が伝わるように修正しようとしている。	記録に残す評価 言語活動の最後等に、重点とした学びの身に付いているかどうかの学習状況を記録に残します。
3	推敲をした下書きを、お話を基に修正する。 指名書きをして発表の準備をする。 単元の振り返りをする。	知	○	【知・推】（読書・下書き） 物語の筋き、登場人物、丁寧な表現を適切に活用している。	
		2	本時	【思・推・表】 読者の気持ちや伝わるように、具体的な表現の効果を確認し、文章を整えている。	

※ 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況（B）の生徒の姿

○ 評価規準を生徒の姿で示した具体例【思・推・表】
お話を聞いた後へ読者の気持ちを伝えるために、具体的な事例の効果や自分の思いやりの意識が伝わるように修正しようとしている。自分の考えを文章にまとめたたり、伝え合ったたり等の言語活動を通して、言葉の力を適切に活用している。

Point: 具体的な言語活動とは例えば、自分の考えを文章にまとめたたり、伝え合ったたり等の言語活動です。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「思考力・判断力・表現力等」の指導の中で、例えば「読むこと」の学習を通して、読者の心情や意図を捉え、その内容を正確に理解し適切に発信している。また、自分の考えを文章にまとめたたり、伝え合ったたり等の言語活動を通して、言葉の力を適切に活用している。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を「思考・判断・表現」の1つの観点で評価します。単元の中でどの領域を重点的に指導するかを明確にして、授業をつくることが求められます。	主体的に設定した意見交流会等の言語活動を通しての学習への取組を評価します。例えば、発表会に向けて、自分の文章の表現を磨き直し修正している等、目的に沿って、読者の言語知識を生かそうとしている姿から見取ります。

※本冊子と平成29・30年度冊子は当総合教育センターのwebページから、ダウンロードすることができます。

『新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価』について

平成29年3月に新学習指導要領が公示され、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面実施となります。

児童生徒に求められている資質・能力を確実に育成するためには、指導と評価の一体化を図ることが必要です。教師がねらいに応じて、授業における児童生徒の学びの姿を見取り、学習指導の改善に生かしていくことが大切です。

本冊子は、新学習指導要領における学習評価の基本的な考え方や小・中学校の全教科等における評価の進め方等について、ポイントを絞って一冊にまとめました。表紙デザインは「実りの秋」をイメージしています。平成29年度作成の「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり」、平成30年度作成の「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり」（実践事例編）と共に、三冊あわせて活用し、「指導と評価の一体化」を実現して、児童生徒の資質・能力の確実な育成につなげていただきたいと思います。

目次

巻頭 冊子の見方・活用の仕方	1
I 学習評価の基本的な考え方	3
各教科等における学習評価の進め方	5
II 小学校各教科・領域	III 中学校各教科・領域
国語科	国語科
社会科	社会科
算数科	数学科
理科	理科
生活科	音楽科
音楽科	美術科
図画工作科	保健体育科
家庭科	技術・家庭科【技術分野】
体育科	技術・家庭科【家庭分野】
外国語科	外国語科
特別活動	特別活動
IV 小・中学校共通	V 指導要録の記載事項 ...
総合的な学習の時間	58
特別の教科 道徳	

指導と評価の一体化

今回の学習評価の改善の中で、「指導と評価の一体化」がこれまで以上に重視されています。今までも大切にしてきた考え方ですが、「指導したことを評価し、評価したことは指導に生かしていく」ことを改めて強調するものです。

また、学習指導要領の改訂では、児童生徒は「何ができるようになるのか」という視点に立ち、全教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱に整理され、学習評価の観点も3観点で示されました。（P4「基本的な構造」参照）そのため、教師は「**目標とする資質・能力が身に付いているか**」を見取る必要があるということです。

「主体的・対話的で深い学び」の実現により、資質・能力を育成するためにも、教師は学習状況を的確に捉え、次の2つの改善に生かすことが求められます。

①期待する児童生徒の姿が見られなかった場合は、教師は目標の実現やつまずきの解消に向けて次の指導に生かすこと。（授業改善）

②児童生徒は自らの学習を振り返り、次の学習へ生かすこと。（学習改善）

右図に示すような「指導と評価の一体化」へ向けて取り組むことが大切です。

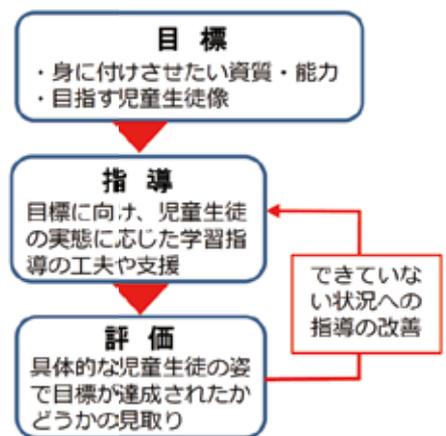
「指導と評価の一体化」を図ることで、評価が指導や学習改善へ結び付き、各教科等の目標の実現につながります。これまで慣行として行われてきたことも、必要性や妥当性がない場合は見直すことが必要です。

実際に評価をしていく中で、毎時間全児童生徒の学習状況を記録に残すことは難しく、現実的ではありません。教師は指導することに十分な時間と労力をかけられるように、単元の中で、下に示す

「**指導に生かす評価**」と「**記録に残す評価**」を計画的に位置付けることが大切です。

このようにすれば、教師は記録ばかりに労力を割かれることが少なくなり、児童生徒の学習のつまずき等への手立てをする時間の確保ができるようになります。だからこそ、計画に基づいた指導と評価を行うことが大切です。

《指導と評価の一体化のイメージ》



「指導に生かす評価」

毎時間行う評価です。例えば、単元の前半では努力を要する状況の児童生徒を中心に見取り、単元や本時の目標を達成するために必要な手立てや支援を行うことも考えられます。いわゆる「指導改善に生かす」ための評価のことです。

目標の実現のために、児童生徒の学習状況を机間指導等で適切に見取って支援し、つまずきの確かな解消を図ります。

「記録に残す評価」

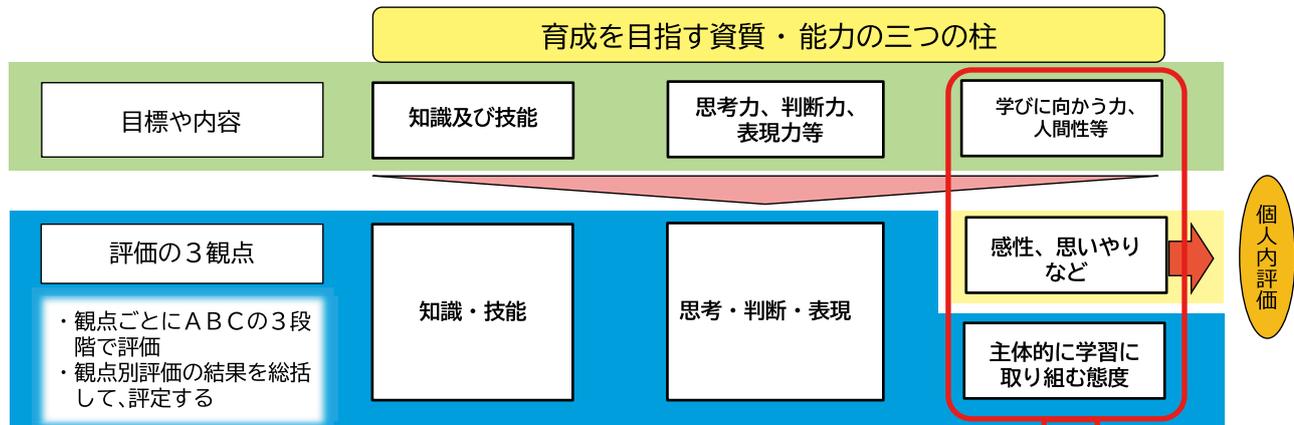
指導した内容について、児童生徒の達成状況を見取り、全員分記録に残し総括するための評価です。そのため単元のまとまりの中で指導した内容の達成状況が適切に見取れる段階で評価します。

1回の授業で3観点全てを評価するのではなく、「記録に残す評価」の場面を精選することが重要です。

大切なことは、学校全体で学習評価の進め方や方法を協議して、共通理解した上で行うことです。それが「カリキュラム・マネジメント」となり、学校全体の授業改善につながります。また、児童生徒や保護者の学習評価への信頼性等も高まり、個々の教師の負担軽減にもなります。これまでの学習評価で課題となっていた「単元末プリントや定期テスト等の事後での評価に偏る傾向」等の解決を図り、児童生徒の確実な資質・能力の育成に結び付きます。これらの一連の取組が学校の教育活動全体の質を上げることにつながっていきます。

基本的な構造

学習評価は、学習指導要領に示す各教科等の目標や内容に照らして学習状況を評価するもので、目標に準拠した評価です。



資質・能力の三つの柱の一つ「学びに向かう力、人間性等」は、観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる「主体的に学習に取り組む態度」と、観点別学習状況の評価や評価にはなじまない「感性、思いやりなど」に分けられます。「感性、思いやりなど」については、児童生徒一人一人の良い点や可能性、進歩の状況等を個人内評価として見取ります。

「観点別学習状況の評価」の3観点の考え方

知識・技能

学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価するとともに、それらを概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものです。

現行の「知識・理解」と「技能」が統合されたものです。理解を伴った知識を基に、他の場面でも応用できる知識や技能の習得状況の評価をします。

思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものです。

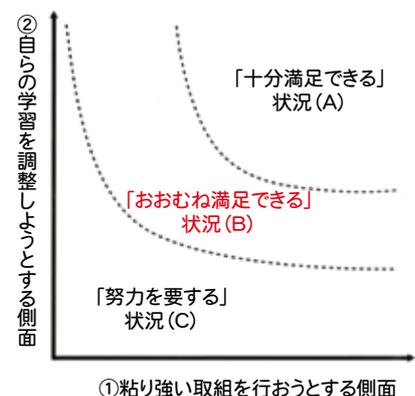
自分の考えを表現させたり、問題解決的学習で最適な答えを思考・判断させたりする等の学習場面を通して評価をします。

主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた**粘り強い取組を行おうとする側面**と、②その粘り強い取組を行う中で、**自らの学習を調整しようとする側面**、という二つの側面から評価します。学習の進め方について試行錯誤する等の調整をしながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

適切に評価するためには、児童生徒に学習のめあてや見通しをもたせたり、その達成状況を振り返らせたりすることが必要です。また、学習の途中にそのやり方等を調整しているかを見取することも大切です。児童生徒の内面の変化を表出させる場面づくりが求められています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ



(注)イメージ図は、「学習評価の在り方ハンドブック」(文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター、令和元年6月)から引用。

「評価規準」を作成し、「目標」の実現状況を評価する

授業は、児童生徒に目標とする資質・能力を育成していく場です。教師は、目標の実現状況を判断するために評価をします。つまり、評価とは児童生徒が目標とする資質・能力に到達できているかを見取ることです。教師は、児童生徒の姿から目標の実現状況を判断することになりますが、その際「よりどころ」が必要となります。この「よりどころ」を「評価規準」といいます。

新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が三つに整理されていることを踏まえ、学習指導要領の目標に記載されている文章を使うことで、「よりどころ」としての妥当性を示すことができます。ここでは、実際の授業づくりに向けて、小学校学習指導要領の算数を例に「2 内容」に記載された文章を活用した「内容のまとまりごとの評価規準」の作成について紹介します。

「内容のまとまり」とは、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容 2 内容」の項目等を、そのまとまりごとに細分化したり整理したりしたものです。つまり、各教科等は「内容のまとまり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されています。よって、「2 内容」の記載はそのまま各教科等の学習指導の目標となりうるものとなっています。

(例) 第3節 算数

- 第1 目標
- 第2 各学年の目標及び内容

第3学年

- 1 目標
- 2 内容

A 数と計算

(1) 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 万の単位について知ること。

(イ) 10倍、100倍、1000倍、 $\frac{1}{10}$ の大きさの数及びそれらの表し方について知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(ア) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を考え、日常生活に生かすこと。

「内容のまとまり」とは、この「2 内容」です。

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

評価規準は、目標となりうる「2 内容」に記載されている文末表現を変えることで、作成できます。

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点とは、各教科等における該当学年の学習指導要領の「内容のまとまり」を確認し、その記載を活用して作成します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の観点とは、継続的な取組を通して現れる特質等を有することから「2 内容」に記載がありません。そのため「1 目標」を参考にしつつ、必要に応じ改善等通知(※)の観点の趣旨を参考に作成します。

※改善等通知；「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(文部科学省初等中等教育局、平成31年3月29日付け、30文科初第1845号)

◇内容のまとまりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・万の単位について知っている。 ・10倍、100倍、1000倍、10分の1の大きさの数及びそれらの表し方について知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を考え、日常に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整数に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

このように、「2 内容」に記載された文章を活用することで、妥当性のある評価規準を作成することができます。単元の目標を作成する際も、目指す児童生徒の姿として評価することを踏まえ、妥当性のある単元の評価規準となるように工夫します。

単元（題材）における学習評価の進め方

各教科等の単元における学習評価を行うに当たっては、**年間の指導と評価の計画を確認することが大切です**。それは、年間を通じて児童生徒に確実に資質・能力を育成していくからです。年間における各単元の位置付けを明確にした上で、単元における学習評価を進めていきます。

ここからは、単元における学習評価の進め方について、資質・能力の育成を目指す授業づくりの視点から説明します。

Step 1 単元（題材）の目標と単元（題材）の評価規準を作成する

本単元の目標を設定するためには、教科書の年間の配列や、教科書の中で想定されている各単元の指導事項を確認するとともに、**学習指導要領で示された該当学年の目標及び内容を確認**します。

続いて、例えば国語科では、学習指導要領に示されている「2 内容」の中から、本単元で重点的に指導を行う指導事項を決めます。下に示したように、複数ある指導事項の中から本単元で扱う指導事項を選び、単元の目標として設定します。

単元（題材）の目標
を作成する

単元（題材）の評価規準
を作成する

小学校国語科〔第3学年及び4学年〕「2 内容」〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと
(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係等について、叙述を基に捉えること。
- イ 登場人物の行動や気持ち等について、叙述を基に捉えること。
- ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。
- エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。
- オ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方等に違いがあることに気付くこと。

本単元では、アとウの指導事項を重点として選びました。



↓ 上に示した指導事項アを基に単元の目標を作成すると…

<単元の目標の例>
段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係等について、叙述を基に捉えることができる。

↓ 作成した単元の目標の文言を使って、単元の評価規準を作成すると…

<単元の評価規準の例>
段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係等について、叙述を基に捉えている。

Point
指導事項から単元の目標を作成するときには、文末を「～ができる」とします。単元の目標から単元の評価規準を作成するときには、文末を「～している」とします。

ここまで、単元の目標を踏まえて、単元の評価規準の作成の手順について示しました。これに加えて、単元の評価規準の作成は、次の視点からも確認し、単元で重点的に指導する指導事項を定めます。

- 単元（題材）に関する児童生徒の学習到達状況の確認**
 - ・全国並びに岡山県学力・学習状況調査等を活用して、分析的・客観的に学習到達状況を確認します。
- 単元（題材）に関する児童生徒の学習経験等の確認**
 - ・本単元に関わる内容について、前単元までの児童生徒の学習経験等を確認します。

このように、各教科等において、**学習指導要領で示された内容を踏まえて、評価のよりどころとなる単元の評価規準を作成することは**、前頁で示した「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方に沿ったものです。これは**目標に準拠した評価の作成であり、「指導と評価の一体化」を図る上での基盤**となります。

Step 2 単元（題材）の「指導と評価の計画」を作成する

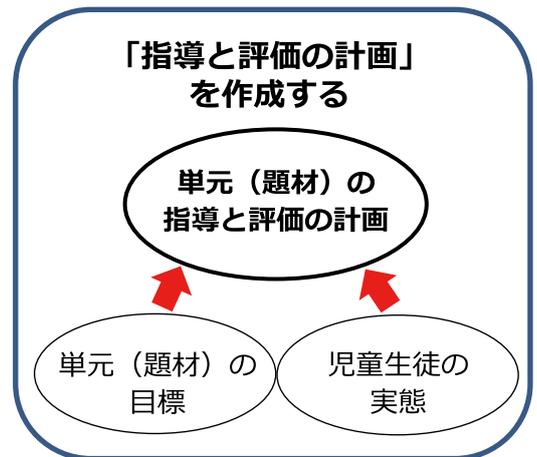
指導と評価の一体化を進めるに当たっては、単元の目標と児童生徒の実態を踏まえた上で、Step 1 で作成した**単元の評価規準を単元の中に適切に位置付けることが大切です**。その際のポイントについて、2点示します。

目標達成に効果的な指導計画の作成

何を、どのような順序で、どのような学習活動を通して学ばせると効果的に単元の目標を達成できるのかを考えます。

無理のない評価計画の作成

評価を行うために必要な時間を考え、単元全体でバランスよく評価を位置付けます。



2点のポイントの中で、ここでは「無理のない評価計画の作成」について説明します。

授業においては、**目標が達成されたかどうかについて、評価規準に照らして確認し、毎時間適宜指導を行うこと**になります。ここで**児童生徒の姿を確認している評価が「指導に生かす評価」**につながります。つまり、教師は毎時間児童生徒に対して「指導に生かす評価」を行う必要があります。

その上で、評価規準に照らして、観点別学習状況の評価に向けて、児童生徒全員分の記録を取ることも必要です。これが「記録に残す評価」となります。この**「記録に残す評価」については、いつ、どのような方法で児童生徒の観点別学習状況の評価するための記録を取るのか**について、評価計画を作成することが大切になります。

その際、無理のない評価計画を作成するポイントには、次のものが挙げられます。

Point

「記録に残す評価」を行う時間の精選

毎時間、児童生徒全員分の記録を取り、総括の資料とするために蓄積することは現実的ではありません。単元の中で「記録に残す評価」を行う時間を精選します。その際、単元の評価規準を位置付けている児童生徒の姿が、最も表れやすい時間に設定します。

「観点別学習状況の評価」の3観点については、指導計画に合わせて評価を行う適切な時間を設定することが大切です。また、3観点が重なり過ぎることなく、児童生徒全員の姿として見取ることによって評価可能な計画にすることも必要です。単元において、3観点を評価する留意点として、次のものが挙げられます。

知識・技能

教科によっては「知識・技能」をまとめて評価するもの、「知識」と「技能」を分けて評価するものがあります。それぞれの教科の特性に合わせて評価します。

※現行の学習評価の「理解」の観点も含めることに注意が必要です。

思考・判断・表現

授業中の課題発見や解決の過程において、児童生徒が発揮するものを評価します。授業中の発言や話し合い活動の様子、自力解決時の問題解決の様子、適用問題の解決の様子、学習の感想等の記述内容を見取ることが考えられます。

主体的に学習に取り組む態度

挙手の回数や毎時間ノートを書いているか等、性格や行動面の一時的に表出された場面を捉えての評価ではありません。自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を捉え、適切に評価していくことが大切です。

これらの留意点を踏まえて、単元全体の中で、3観点をバランスよく位置付けることにより、単元の「指導と評価の計画」を作成することができます。



Step 3 「指導と評価の計画」を基に授業を行う

評価のあるべき姿は、授業において目標に掲げた「児童生徒に身に付けてほしいこと」を、そのまま評価の対象とすることです。つまり、「何を評価すればよいのか」と難しく考えすぎずに、掲げた目標に到達したかどうかを確かめるということが評価することになります。

「児童生徒に身に付けてほしいこと」は、各教科等における資質・能力です。



授業を実施する

観点別学習状況の評価を行う



- ・児童生徒の学習改善
- ・教師の指導改善

ここからは、**本時における観点別学習状況の評価**について説明します。

本時において、観点別学習状況の評価規準に照らして児童生徒を評価する際には、どの児童生徒もその評価規準が達成できるように、教師が指導の工夫を行うことが基本です。教師が適切な指導を行わないまま、児童生徒を「努力を要する」状況と評価することは望ましくありません。教師の指導の下での評価を適切に行うためには、**発言や記述の内容レベルでの児童生徒の具体的な姿を想定しておくことが必要**です。

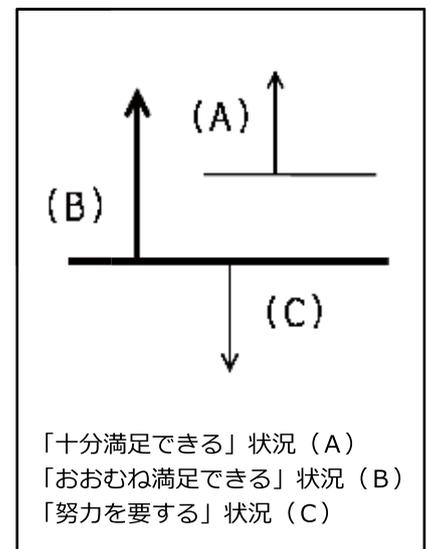
Point

目の前の児童生徒から具体的な姿を想定

日々授業を行っている目の前の児童生徒を思い浮かべ、「この学習活動であれば、Aさんはこのように発言するだろう。」「Bさんならこのような考えをノートに記述するだろう。」「Cさんがこんな活動に取り組めるようにしたい。」等と複数の具体的な姿を想定します。そうすることで、本時における観点別学習状況の評価規準が、実際の児童生徒の姿として具体化されることになります。

評価規準を作成して実際に評価するには、右図のように、児童生徒を評価するときの実現状況を設定します。その際、A、B、C全てについての評価規準を作成するのではなく、**評価規準に示したものを「おおむね満足できる」状況（B）として捉え、それを踏まえてAとCを判断**します。

- ①設定した評価規準に照らして、まず、「おおむね満足できる」状況（B）か、「努力を要する」状況（C）かを判断します。
- ②「おおむね満足できる」状況（B）と判断されるもののうち、児童生徒の学習の実現の程度について、質的な高まりや深まりをもっていると判断されるものを「十分満足できる」状況（A）とします。



なお、評価することが目的となり、児童生徒への指導が不十分になることがないように留意する必要があります。

Point

- ・学習内容や教材に合わせて、**児童生徒の具体的な学習状況の姿の明確化**を図ります。
- ・設定した姿が見られなかった場合には、手立てや支援を加えて児童生徒の学習改善を図り、目標が達成できるようにします。
- ・「十分満足できる」状況（A）は、各教科等の特性を考えて、あらかじめ教師が質的な高まりや深まりの内容を具体的な児童生徒の姿として設定し、基準を明確にしておきます。

Step 4 観点ごとに総括する

集まった評価の資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行います。総括的評価を行う時期は、単元末、学期末、学年末等の節目が考えられます。

具体的な内容について、評価に係る記録の総括と評定への総括について説明します。

各学校で、総括の考え方や方法等の協議をして、共通理解を図っておくことが重要です。ここで挙げる例は、あくまで参考です。各学校の実態に応じて方法等を決定することが大切です。

【参考資料】「学習評価に関するガイドライン」（岡山県教育庁義務教育課、令和元年12月）

①単元（題材）における観点別評価の総括の例

単元の目標や評価規準を基に、指導と評価の計画を立て、記録に残す評価場面を適切に設定します。それぞれの場面で観点別に評価したものを総括します。

〈例1〉評価結果のA、B、Cを数値で表し、達成度で決める方法

（全6時間の場合）

A	B	C
3点	2点	1点

学習活動	1	2	3	4	5	6	総括	単元の評価
知識・技能	3点			3点	2点		8/9点→89%	A
思考・判断・表現			2点			3点	5/6点→83%	A
主体的に学習に取り組む態度		2点		2点		3点	7/9点→78%	B

※判定基準の根拠例

例えば、AとBが同数の場合、割合は約83%となります。また、BとCが同数の場合、割合は50%となります。

評価の回数が増えても、この割合は変化しないので、このように基準を設定しました。

観点別評価	A	B	C
観点別の達成度	83%以上	82～51%	50%以下

Point

各学校で評価方法を検討して、共通認識の中で進めていくことが大切です。

〈例2〉評価結果のA、B、Cの数で決める方法

→評価結果のA、B、Cの数が多いものを、その観点の評価結果とする方法

※留意点

「A B」のように同数の場合や「A B C」のように混在する場合は、あらかじめ総括の仕方を決めておくことが必要です。

学習活動	1	2	3	4	5	6	単元の評価
知識・技能	A			A	B		A
思考・判断・表現			B			A	A
主体的に学習に取り組む態度				B		B	B

②学期末における観点別評価の総括の例

- ・単元において観点毎に総括した評価結果を合計して、それを基に学期末の総括をする場合。
 - ・それぞれの授業で観点別に評価した結果を学期末にまとめて合計し、総括する場合。
- 総括の方法は、上記の「①」を参考に考えることができます。

③学年末における観点別評価の総括の例

- ・各学期末における評価結果を合計して、学年末に行う場合。
 - ・単元において観点別に総括した評価結果を合計して、それを基に学年末の総括をする場合。
 - ・それぞれの授業で観点別に評価した結果を学年末にまとめて合計し、総括する場合。
- 総括の方法は、上記の「①」を参考に考えることができます。

「観点別学習状況の評価」を総括した「評定」と「総括」

児童生徒の学習の実現状況を小学校では3段階、中学校では5段階で評定します。ただし、小学校第1学年及び第2学年では評定はしません。

小学校	3:「十分満足できる」状況と判断されるもの 2:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの 1:「努力を要する」状況と判断されるもの
-----	--

中学校	5:「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの 4:「十分満足できる」状況と判断されるもの 3:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの 2:「努力を要する」状況と判断されるもの 1:「一層努力を要する」状況と判断されるもの
-----	--

①学期末における評定への総括の例

- ・単元において観点毎に総括した評価結果を合計して、それを基に学期末の総括をする場合。
 - ・それぞれの授業で観点別に評価した結果を学期末にまとめて合計し、総括する場合。
- 総括の方法は、下記の〈例1〉〈例2〉を参考に考えることができます。

Point

「評定」と「総括」においても、学校全体で共通理解の中で進めていくことが重要です。

②学年末における評定への総括の例

- ・各学期の観点別評価から学年末の観点別評価を出し、それを学年末の評定に総括する場合。
 - ・各学期の評定を学年末の評定に総括する場合。
- 総括の方法は、下記の〈例1〉〈例2〉を参考に考えることができます。

〈例1〉観点別学習状況の評価を数値化し、合計値で決める方法

観点別評価	合計値	評定 (小学校)	評定 (中学校)
A A A	9	3	5 または 4
A A B	8		
A B B A A C	7	2	3
A B C B B B	6		
B B C A C C	5		
B C C C C C	4 3		
		1	2 または 1

A	B	C
3点	2点	1点

〈例2〉観点別学習状況の各観点の評価結果を点数で算出し、それを各合計値の満点に対する割合で、評定に算出する方法

観点別の達成度	83%以上	82~51%	50%以下
小学校	3	2	1
中学校	5または4	3	2または1

Point

懇談や通知表等で、児童生徒や保護者へ評価に関する仕組みや評価結果について、丁寧に説明しましょう。説明をして理解を図ることが信頼性の向上の視点からも重要です。

改善等通知とは

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(初等中等教育局、平成31年3月29日付け、30文科初第1845号)

文部科学省において、「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(平成31年1月21日)を受け、新学習指導要領の下での学習評価が適切に行われるとともに、各設置者による指導要録の様式の決定や各学校における指導要録の作成に当たっての配慮事項等をまとめたものです。主な内容は、「学習評価の基本的な考え方」「学習評価の主な改善点について」「指導要録の主な改善点について」「学習評価の円滑な実施に向けた取組について」「学習評価の改善を受けた高等学校の入学選抜、大学入学選抜の改善について」等が示されています。



学習評価で大切にしたいこと

年間を見通した学習評価

国語科では、一つの指導事項を年間で複数回繰り返して指導することが多いです。そのため、年間を見通して、単元の目標や評価規準を設定することが重要になります。

児童の具体的な姿を想定した学習評価

国語科では、言語活動を適切に位置付けて指導することが大切です。児童が取り組む活動の中で、例えば文章を読み取ってまとめているリーフレットの中に、どのような児童の記述があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのかについて、言語活動と関連付けて想定しておくことが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、国語科においては、基本的には「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

国語科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、意思的な側面を評価します。なお、国語科では次の四つの内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて評価規準を設定します。

- I 粘り強さ（例：積極的に、進んで、粘り強く 等）
- II 自らの学習の調整（例：学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして 等）
- III 他の2観点〔知・技〕〔思・判・表〕において、重点的に指導する内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- IV 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

第5学年及び第6学年〔思考力・判断力・表現力等〕「C 読むこと」（言語活動例：C（2）イ）
本単元の言語活動：気に入った宮沢賢治の作品について、ポスターを基に友達に推薦する活動

単元の評価規準例 粘り強く（I）登場人物の相互関係や心情等について描写を基に考え（III）、学習課題に沿って（II）推薦しようとしている（IV）。

Point

ねらいや言語活動と結び付けて、粘り強さや自らの学習を調整する内容を位置付けることが大切です。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3領域の指導の中に、知識及び技能の内容である言葉の特徴等の指導事項を位置付けて評価することが基本です。語彙では想定される文言を複数想定しておき、それらの文言が使えたかどうかで評価します。

思考・判断・表現

話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3領域における思考力、判断力、表現力等が身に付けられているかを評価します。その際、低学年では事柄の順序、中学年では段落の関係、高学年では全体の構成等、発達段階に応じて見取ることが大切です。

主体的に学習に取り組む態度

粘り強さと自らの学習調整の関わり合いを踏まえて評価します。例えば、単元のゴールである音読発表会の見通しをもった上で、登場人物の気持ちなどが的確に表れている文を見つけ、自分が読み取った内容に合うように音読を繰り返している姿等を見取るようにします。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 3観点をバランスよく評価

国語科では、言語活動のまとまりの中で評価を行います。そのため、単元全体の言語活動を見直し、児童の姿が最も見取りやすい時間に評価を位置付けることが大切です。

2 単元の評価規準の具体化

国語科では、単元の評価規準を教材に照らして具体化したものを「指導と評価の計画」に位置付けます。具体化に向けては、文学的な文章を読み込む等、教材分析が必要です。

(例) 第6学年「C 読むこと」(文学的な文章)の授業

◇ 単元名 宮沢賢治の作品を読み味わい、ポスターで友達に推薦しよう 教材名「やまなし」、宮沢賢治作品

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情等について、描写を基に捉えている。 ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	①粘り強く登場人物の相互関係や心情等について描写を基に考え、学習課題に沿って推薦しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
3	・かにの親子の様子について、「五月」と「十二月」を比べて読む。	思	1	[思・判・表①] (観察) ・かにの親子や兄弟の相互関係等について、かにの言動等に注目しながら、「五月」と「十二月」を対比して読む読み方を確認している。
4	・川底の様子について、「五月」と「十二月」を比べて読む。	知	○	[知・技①] (ワークシート) ・色彩表現や擬声語・擬態語等の使い方に対する感覚を働かせ、それらの語や語句を使って発言したりワークシートにまとめたりしている。
6	・飛び込んでくるものについて、「五月」と「十二月」を比べて読む。	思	○	[本時] [思・判・表①] (観察・ワークシート) ・「飛び込んでくるもの」と「かに」の相互関係等について、かにの言動や周りの情景を表す描写等に注目しながら、「五月」と「十二月」の特徴を対比して読んでいる。
8	・推薦したい宮沢賢治の作品についてポスターにまとめる。	主	○	[主①] (観察・ワークシート) ・ポスターで推薦するという学習課題を意識しながら、何度も文章を読み返して場面の様子の特徴付けている描写等を見付けようとしている。

指導に生かす評価

単元の前半で、対比して読み進められていない児童に対して、机間指導の中で叙述を整理して示す等しながら支援します。

記録に残す評価

対比した読み方を基に読み取っているかについて、児童全員の学習状況を記録します。授業後に評価規準を基にワークシートの記述から見取ることも必要になります。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]

かにの言動や周りの情景を表す描写等に注目しながら、かわせみとやまなしの共通点や相違点から関係を捉えることを通して、「五月」は弱肉強食の恐ろしい世界、「十二月」は穏やかで平和な世界のように、それぞれが象徴しているものについて対比的にワークシートに記述したり発表したりしている。

Point

具体的な児童の姿の設定

- ・目の前の児童が関わってくる叙述等を見定める。
- ・叙述等を解釈した児童の読みを複数挙げる。
- ・指導事項に照らして児童の読みを一般化する。

評価方法の例

- ・叙述にサイドラインを付けたり理由を書き込んだりしているワークシートやノートの記述
- ・リーフレットなど言語活動でまとめた作成物



学習評価で大切にしたいこと

単元を見通した学習評価

単元における学習問題を設定して資料等で調べ、社会的事象の特色を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、社会生活に生かそうとする態度を養います。そのため、単元を見通した目標と評価規準を設定することが重要になります。

学習状況を把握し、指導に生かす評価

評価場面では、記録に残すだけでなく、資料から複数の情報を読み取ることはできるが個々の社会的事象を関連付けて考えることに課題がある等の学習状況を把握することが大切です。教師はその上で児童を支援します。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、小学校社会科では、学習指導要領の特徴から「内容のまとめり」をそのまま「単元」と捉えることができます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して、社会生活について理解しているとともに、様々な資料や調査活動を通して、情報を適切に調べまとめている。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記の視点を踏まえ、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。

- I 知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向け粘り強い取組を行おうとする側面
- II 粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面

第3学年「事故や事件から人々の安全を守る」

単元の 評価規準例
①地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして(II)、学習問題を追究し、解決しようとしている(I)。 ②学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができようことを考えようとしている。※単元によっては、①のみの場合もあります。

Point

「単元の評価規準例」の②については、選択・判断したり、発展について考えたりする内容に関連する単元で設定します。例えば、第3学年「市の様子の移り変わり」や、第5学年「我が国の工業生産」の単元設定が考えられます。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

学習問題の解決に向け、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子について具体的に理解しているか、また、調べた内容を文等にまとめ、社会的事象の特色や意味を理解しているか、という学習状況を捉え、評価します。

思考・判断・表現

社会的事象から学習問題を見だし、比較したり関連付けたりしながら社会的事象の特色や意味について考えているか、また、社会への関わり方を選択・判断したりしているか等の学習状況を捉え、評価します。

主体的に学習に取り組む態度

社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか、また、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているかという学習状況を捉え、評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 努力を要する状況の児童への支援

資料から必要な情報の読み取りや、社会的事象の意味の理解等の学習状況を見取り、十分に理解できていない状況にある児童には、支援を行うことが大切です。

2 記録に残す評価場面の設定

「思考・判断・表現」であれば、個々の社会的事象を関連付けて考える場面をメモする等、それぞれの観点で児童の姿が最も見取りやすい時間に評価を位置付けます。

(例) 第3学年「地域の安全を守る働き」の授業 ◇ 単元名 「事故や事件から人々の安全を守る」

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①警察の活動について必要な情報を集め、読み取って理解している。 ②警察は、地域の安全を守るために関係機関や地域の人々と協力し、様々な活動を行っていることを理解している。	①警察の緊急時への対応に着目し、警察や関係機関の諸活動について関連付けて考えている。 ②学習したことを基に、地域や自分自身を守るためにできることを考えたり、選択・判断したりしている。	①地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができることを考えようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全9時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
2	・警察がどのような仕事をしているか理解できるようにする。	知	1	[知・技①] (ノート) ・警察の活動について資料を基に必要な情報を集め、読み取って理解している。
4	・交通事故が起きた時の、警察や関係機関の働きについて考える。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート) ・警察の緊急時への対応に着目し、警察や関係機関の諸活動について関連付けて考えている。
6	・事故や事件から安全を守る人々の働きについてまとめることができるようにする。	知	○	本時 [知・技②] (ノート) ・警察は関係機関や地域の人々と協力し、地域の安全を守るため様々な活動を行っていることを理解している。
8	・単元の学習を基に、地域の安全を守るため自分たちができることを考える。	主	○	[主②] (ワークシート) ・学習したことを基に、地域の安全を守るため自分たちができることを考えようとしている。

指導に生かす評価

資料の読み取りに困難がある場合は、グラフの一部を拡大する、資料の情報量を減らして提示する、ヒントカードを示す等が考えられます。

記録に残す評価

警察や関係機関の資料を用意し、それぞれの活動を関連付ける場面を設定し、児童の特徴等をメモする等、全児童の学習状況を記録します。

*例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [知・技②]

警察と関係機関の活動に着目し、「交通事故が起きたら、警察が中心となって消防署と連携して事件や事故に対応したり、地域の人々と協力してパトロールをしたりしている」等について記述している。

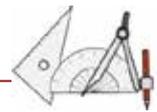
Point

具体的な児童の姿を設定するために

学習内容に沿った資料を準備し、児童の社会的事象に対する気付き等の記述内容を予想しながら授業づくりを行います。

評価方法の例

- ・社会的事象が起こった原因と結果について、根拠を挙げながら表現しているか等が分かる記述
- ・必要な情報を収集し、まとめているか等が分かる記述



学習評価で大切にしたいこと

学びが深まった姿で目標を捉え、評価対象とする
「何を評価すればよいのか」と難しく考えず、問題発見・問題解決している児童の学びの過程を具体的にイメージし、目標に到達した姿を捉えてから、評価を行いましょう。

表面に出にくい資質・能力は多面的に見取る
テストで評価しにくい「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」は、具体物の操作や言語活動の行動観察、図や式表現のノート分析等、複数の評価方法から見取りましょう。

評価の観点及びその趣旨

児童が目標を達成したかどうかを判断するためには、学習状況を観点ごとに評価することが大切です。そのため、算数科の教科目標をもとに作成された「評価の観点及びその趣旨」で方向性を確認し、判断のよりどころを表現した評価規準を作成し、実際に観点別学習状況の評価を行っていくことが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。 日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けている。 	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き粘り強く考えたり、学習を振り返ってよりよく問題解決しようしたり、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を作成する際、下記のⅠ、Ⅱの視点を踏まえ、学習指導要領の内容をもとに作成します。

- Ⅰ 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組を行おうとする側面
- Ⅱ Ⅰの粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

Point

単元の評価規準の作成に当たっては、学習指導要領の内容を基に作成した「内容のまとめりごとの評価規準」やそれを更に具体化した「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」を参考にすることができます。

第3学年「A 数と計算」(4)「除法」

単元の評価規準

- ① 除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。
- ② 除法の場면을身の回りから見付け、除法を用いようとしている。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

授業中の問題発見や解決の過程において「知識」は繰り返し使う中で、定着し理解が深まります。また、「技能」も繰り返し使うことで習熟し、生きて働く確かなものとなっていきます。これらのことから、単元の後半に評価の機会を設定することが考えられます。

思考・判断・表現

授業中の問題発見や解決の過程において児童が発揮するので、授業中の発言や話し合いでの活動の様子と、自力解決時の問題解決の様子、適用問題の解決の様子、学習感想等の記述内容を見取ることが考えられます。

主体的に学習に取り組む態度

既習事項を活用したり、話し合いで他者の意見を参考にしたり、振り返ってよりよい表現や方法を考えたり、日常生活の場面において活用しようとする姿等、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を捉え、評価していくことが大切です。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 3観点をバランスよく適切に評価する

「指導と評価の計画」を作成するに当たっては、単元目標を分析し、各時間のねらいにふさわしい1～2観点到に評価項目を精選し、単元を通して3観点をバランスよく評価します。

2 「思考・判断・表現」の評価場面

「思考・判断・表現」の評価については、単元末だけでなく、単元の評価規準の①や②の評価内容ごとに、問題発見や解決の過程を行う時間に「記録に残す評価」を行うことが考えられます。

(例) 第3学年「A 数と計算」(4)「除法」の授業

◇ 単元名 あまりのあるわり算

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②除数と商がともに1位数である除法の計算が確実ができる。 ③割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ②余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	①除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ②除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。(「わり算探し」など)

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	1	2	評価規準・評価方法
1	・余りのある場合でも除法を用いてよいことや答えの見付け方を具体物や図などを用いて考える。	思 主				[思・判・表①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 [主①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。
2	・余りのある場合の除法の式の表し方や、余りなどの用語の意味を知る。	知				[知・技①] (ノート分析) ・包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。
3	・余りと除法の関係を調べる。	知				[知・技③] (ノート分析) ・割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。
4	・等分除の場面についても余りのある場合の除法が適用できるかを考える。	思	○	本時		[思・判・表①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。

指導に生かす評価

第1時では、余りのある場合でも除法を用いてよいことを見出しているかどうかを見取ります。主に「努力を要する」児童を把握し、支援を行います。

記録に残す評価

第4時では、等分除の場面についても余りのある場合の除法が適用できることを見出しているかどうかを把握して、記録に残します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時におけるおおむね満足できる状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]

ブロックを操作しながら、等分除の場面についても、余りのある場合の除法が適用できるかについて考え、包含除と同じように余りのある場合の除法を用いてよいことを説明している。

Point

具体的な児童の姿の設定

本時目標に向けて、どのように思考が深まるか、どのように表現が洗練されるか等を、具体物の操作や図による表現、言語活動等に合わせて設定します。

評価方法の例

- ・授業中の発言や話し合いでの活動の様子
- ・自力解決時の問題解決の様子、適用問題の解決の様子、学習感想



学習評価で大切にしたいこと

育成を目指す資質・能力を評価する学習場面の設定

共通点や差異点を基に問題を見だし表現する資質・能力の育成には、比較して問題を見だし表現する場面を設けなければ評価はできません。単元の目標や評価規準から指導と評価の計画を作る際、その場面を設定しましょう。

「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の育成

観点別学習評価に馴染まない「感性や思いやりなど」に関する内容として、小学校理科では「自然を愛する心情」が考えられます。できるだけ本物の自然との関わりをもてるような授業を進め、感性や思いやりを涵養していくことが大切です。

評価の観点及びその趣旨

下記の「評価の観点及びその趣旨」は、教科の目標を踏まえて作成されている小学校理科全体のものです。「評価規準」の「主体的に学習に取り組む態度」の観点を作成する際は、各学年の目標を参考にしつつ「評価の観点及びその趣旨」に関わる記載を用いることが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自然の事物・現象についての性質や規則性などについて理解しているとともに、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱いながら観察、実験などを行い、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決している。	自然の事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

なお、小学校理科では、学習指導要領の特徴から「内容のまとめり」をそのまま「単元」と捉えることができます。ただし、光と音の性質では、教科書が「光の性質」と「音の性質」に分けて扱っている場合もあり、学習指導要領の「内容のまとめり」と教科書の単元が一致していない場合もあります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、評価規準を設定します。

- I 粘り強さ（例：進んで関わり、粘り強く 等）
- II 自らの学習の調整（例：他者と関わりながら、今までの学習を生かして、問題解決しようとしている 等）
- III 理科を学ぶ意義や有用性（例：学んだことを学習に生かそうとしている、生活に生かそうとしている 等）
- IV 内容のまとめりに対する学習の対象（例：風とゴムの働き、太陽と地面の様子、光と音の性質 等）



第3学年（3）「光と音の性質」の内容のまとめり（単元）について例示

単元の
評価規準

- ①光と音の性質（IV）についての事物・現象に進んで関わり（I）、他者と関わりながら、問題解決しようとしている（II）。
- ②光と音の性質（IV）について、学んだことを学習や生活に生かそうとしている（III）。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識」とは自然事象に対する基本的な性質、規則性等の理解、「技能」とは観察実験を行う際の基礎的な技能（器具などの操作、データの記録等）のことです。知識と技能は行動観察やパフォーマンステスト等見取る場面を分け、総括して評価します。

思考・判断・表現

4年間を見通し発達段階に応じて問題解決の力を育成します。児童が自然事象に対して比較して、関係付けて、条件制御しながら、多面的に調べる活動場面を設定し、授業内の発言や、レポート、ペーパーテスト等から状況を把握し、評価を行い、中学校につなげます。

主体的に学習に取り組む態度

自然事象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを発言や行動の観察等から評価します。また、授業外でも児童の姿として表出していた場合は評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価

自然事象から児童が問題を見いだす力を発揮する場面を設定し、その上で、児童が経験するようにします。育成を目指す資質・能力の評価規準を児童と共有し、実態を見取ります。

2 記録に残す評価の時間の位置付けを考える

問題を見いだす力の育成をねらった授業を単元で複数回位置付けることができる場合、はじめから記録に残す評価場面とするのではなく、児童の学習状況を確認する場面として位置付けます。

◇ (例) 第3学年(3) 音の性質の授業 ◇ 単元名 音の性質
◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること、また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わることを理解している。 ②器具や機器などを正しく扱い、調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。	①音の性質について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 ②音の性質について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	①音の性質についての事物・現象に進んで関わりながら、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②音の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全7時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	・楽器を使って音を出し、音について知っていることを出し合う。 ・紙で笛を作って音を出す活動をして、各自が問題を見いだす。	思		1 [思・判・表①] (ノート) ・音について差異点や共通点を基に、問題を見だし表現している。
2	・各自が見いだした問題をもとに、学級共通の問題を設定する。 問題：音が出ているとき、物はふるえているのだろうか。 ・複数の物で音を出し比較しながら調べ、観察記録する。	知		[知・技②] (観察・ノート) ・トライアングル、太鼓、紙笛等を用いて音と震えとの関係を調べ分かりやすく記録している。
3	・大きな音と小さな音を聞いたり、出したりする経験をして、音の大きさについての問題を見だし、表現する。 問題：音が大きいときと小さいときで物のふるえ方は、ちがうのだろうか。 ・見いだした音の大きさに関する問題を調べ、観察記録する。	思	○	本時 [思・判・表①] (ノート) ・音の大小について差異点や共通点を基に、問題を見だし表現している。

指導に生かす評価
楽器や紙笛から音が出ている自然事象を比較し、問題を見いだすことができている児童を見取ります。その際、観察の視点を与える等、支援を行います。

記録に残す評価
1、3時に同じねらいの授業を位置付けます。音の大きさの比較ができる教材を準備し、問題を見いだす場面を設定し、ノートの記述から全児童の評価を記録に残します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]
音の大きさを変えたときの物の震え方の違いに着目し、「音が大きいときと小さいときで物の震え方は違うのだろうか」「音の大小は震え方の違いなのか」等、検証可能な問題を見だし、表現している。

Point 「おおむね満足できる」状況(B)から「十分満足できる」状況(A)への判断

評価規準として設定した内容を、児童の姿から見取ることができれば(B)と判断できます。(A)への判断は理科では「学習状況が科学的になっている」という視点が一つの基準になります。例えば「実証性」の側面から質の深まりを判断する際には、振り返り用紙の記述等から「何度も実験することが大切だ」等、データの信頼度を高めるために実験回数の必要性に気付く等の言葉から見取ることが考えられます。



学習評価で大切にしたいこと

創意工夫した単元計画を作成

生活科の単元において、妥当性、信頼性のある評価を行うには、学習指導要領に示された9つの内容を基に、各学校で児童の実態を考慮し、2年間にわたって各内容をどの学年でどのように扱うかを、意図的、計画的に構想することが大切です。

活動や体験そのものを重視

生活科は、児童が具体的な活動や体験を通す中で学んでいくことから、評価は、一人一人の多様な学びや育ちが表れる活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視します。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。

なお、生活科における「内容のまとまり」とは、学習指導要領に示された9つの内容であり、生活科の単元は、その内容を基に、各学校が意図的、計画的に構成するものです。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元を構成する具体的な学習対象や活動を位置付けていきます。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記のⅠ～Ⅲの視点を踏まえ、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。その際、評価規準の構造例を参考にします。

- Ⅰ 粘り強さ…思いや願いの実現に向かおうとしていること。
 - Ⅱ 学習の調整…状況に応じて自ら働きかけようとしていること。
 - Ⅲ 実感や手応え…意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとするを繰り返し、安定的に行おうとしていること。
- ※評価規準の構造例…「○○し、●●しようとしている。」等として作成する。具体的な学習活動に即して、○○にはⅠ～Ⅲに関して具体的に表したものを、●●には、単元を通して期待する具体的な児童の姿を記述する。

第1学年 内容(2) 家庭と生活



単元の
評価規準例

家族のことに関心をもって家庭生活を見つめ(Ⅰ)、規則正しい生活を送ったり、自分の役割を積極的に果たしたりして(Ⅱ)、家族の一員であることを自覚し(Ⅲ)、支えてくれている家族に感謝の気持ちをもって意欲的に生活しようとする(●●)。

*Ⅰ～Ⅲの視点は、必ずしも個別に示されるものではありません。具体的な児童の姿が明らかになることが大切です。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

思いや願いの実現に向けた活動や体験の過程において気付いたことについて評価を行います。特に、それらの気付きの質が、「自覚化された気付き」「関連付いた気付き」「自分自身への気付き」等のように高まっているかについて評価します。

思考・判断・表現

思いや願いの実現に向けて気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、思考を働かせている姿を評価します。多様な学習活動の中で、例えば、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」等の思考が働いているかについて評価します。

主体的に学習に取り組む態度

児童が思いや願いの実現に向けて、対象に関わり続ける姿、自分の活動を見つめ、状況に応じて自ら働きかけようとしている姿、対象への関わりを通して喜びや自信を得た姿、対象に関わる意欲を高めている姿等を評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 小単元における評価規準の設定

小単元とは、一連の具体的な学習活動のまとまりです。生活科では、結果に至るまでの児童の学習過程を見取るために、具体的な児童の姿として小単元の評価規準を設定します。

2 小単元ごとの評価

生活科では、小単元ごとに評価を行います。小単元によっては、3観点のうちいくつかを評価したり、同一の評価規準について、複数小単元にわたって評価したりする場合があります。

(例) 第1学年 内容(2) 家庭と生活 の授業

◇ 単元名 「みんなの「にこにこ」 だいさくせん」

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭での家族や自分の喜びが、自分の生活と深く関係していることに気づき、家庭での生活は互いに支え合っていることや家庭でできる自分の役割があることが分かっている。	家庭での喜びを増やすため、家族のことや自分でできること等について考え、計画を立て実行するとともに、考えたり、聞いたりして分かったことや気付いたことを表現している。	家族のことに興味をもって家庭生活を見つめ、規則正しい生活を送ったり、自分の役割を積極的に果たしたりして、家族の一員であることを自覚し、支えてくれている家族に感謝の気持ちをもって意欲的に生活しようとする。

◇ 指導と評価の計画 (全9時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
(1 小 単 元 1 ・ 2)	・家庭で自分が「にこにこ」するときを思い起こす。				[思・判・表①] (発言・作成物) ・自分が家庭で「にこにこ」している様子を具体的に想起し、表現している。 [主①] (発言・作成物) ・家庭での様々な自分の姿に目を向けようとしている。
	・家庭で自分が「にこにこ」するときの絵をかく。		○ ①	○ ①	
(3 小 単 元 2 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7)	・家族が「にこにこ」するのはどんなときか考える。	○ ①	○ ②	○ ②	[知・技①] (発言・学習カード) ・「にこにこ」が増えると家庭生活をよりよくできることに気づき、家庭での自分の役割が分かっている。 [思・判・表②] (発言・行動・作成物) ・計画を立て家族の「にこにこ」を増やす実践をするとともに、分かったことや気付いたことを表現している。 [主②] (行動・学習カード) ・家族への感謝の気持ちをもちながら、家族の「にこにこ」を増やそうとしている。
	・家族の「にこにこ」を増やす「にこにこだいさくせん」の計画を立てる。(家庭での実践)				
	・実践して気付いたこと等を紹介する準備をする。				
	・実践を紹介し、分かったこと等を生かして「にこにこだいさくせん2」の計画を立てる。(家庭での実践)				

指導に生かす評価
記録に残す評価

生活科では児童の学習状況の全体像を捉え、個人内の成長を認めることが大切です。各単位時間では、小単元の評価規準に照らし、どの観点について特に評価するかを明確にして記録に残すとともに、1単位時間のみならず、複数回の姿を見取り、児童の変容を捉え、指導の改善に生かしていきましょう。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本小単元における「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表②]

家族の喜ぶことを意識して自分でできそうなことを考え、改善しながら家庭生活をよりよくするための取組を実行していくとともに、自分の実践が家族の役に立ったことを表現している。

Point

具体的な児童の姿を設定するために
 ・各内容に示された資質・能力を確認し、単元を必然性のある学習活動で構成する。
 ・活動に対する児童の思いや願い、その高まりを想定する。

評価方法の例

・継続的な活動の中での対象への関わり方の観察
 ・活動を振り返った発言
 ・気づきを記述した学習カード
 ・家庭や地域の人々からの情報



学習評価で大切にしたいこと

音楽を形づくっている要素を選択して評価する

「思考・判断・表現」を指導・評価をする際のポイントとなる「音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など）」は、その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる主な要素を選択して評価します。

言語活動で児童の姿を想定して評価する

表現の活動において、表したい思いや意図を言葉で伝え合いながら、実際に歌ったり演奏したりして音楽表現を高めていく音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けて指導することが大切です。実際の評価に当たっては、表現活動や言語活動等において、どの場面で、どんな姿が見られれば「おおむね満足できる」状況と評価するのかを想定しておくことが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。題材の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、題材で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

音楽科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、意思的な側面を評価します。なお、音楽科では、下記の視点を踏まえ、題材の目標や学習内容等に応じて評価規準を設定します。

- I 文頭にその題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、児童に興味・関心をもたせたい事柄を記載する。
- II 扱う分野を選択して挿入する。

Point

表現活動や鑑賞活動と結び付けて、粘り強さや自らの学習を調整する内容を位置付けることが大切です。

第3学年及び第4学年「A表現 歌唱」

題材の評価規準例
曲の特徴を捉えて歌う学習（I）に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱（II）の学習活動に取り組もうとしている。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識・技能」は、学習内容に応じて知識と技能に軽重を付けることも考えられます。その際は、一方に著しく偏ることがないように留意する必要があります。また、知識と技能を一体的に評価する場合があります。

思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり合いについて考えている状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況の評価します。

主体的に学習に取り組む態度

題材の学習に関心もてるようにしながら、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるか等について継続的に評価し、適切な場面で総括的に評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 題材内でのバランスの取れた評価計画の工夫

題材のまとまりの中で各観点の評価ができるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、バランスを考慮するとともに、具体的に評価の時期や方法を考えることが大切です。

2 評価の結果を記録に残す場面の精選

授業で常に児童の学習状況を把握し、それを基に児童の学習を充実させていく指導に生かす評価と関連させ、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を適切に位置付けます。

(例) 第4学年「A表現 歌唱」の授業

◇ 題材名 曲の特徴を感じ取って歌おう
 楽曲名「とんび」 作詞：葛原しげる 作曲：梁田貞

◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。[知識] ②思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。[技能]	①旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを聴き取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①曲の特徴を捉えて歌う学習に興味をもち、音楽表現を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全3時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
1	・歌詞の表す様子や旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫する。				
2	・旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くとともに、それらを生かして表現を工夫する。	○ (知)	○ (本時)		[知・技①] (ワークシート・観察) ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するために、ワークシートにまとめたり意見を交流したりしている。 [思・判・表①] (ワークシート・観察) ・音楽を形づくっている要素を聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
3	・第1～2時の学習を生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸の仕方や姿勢に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。	○ (技)			[知・技②] (演奏の聴取) ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能について学習した内容が歌唱表現に表れている。 [主①] (観察・ワークシート) ・学習活動に対して主体的・協働的に取り組んでいる。

指導に生かす評価
 主体的に取り組む態度の観点に照らし、継続的に見取り、支援の必要な児童には旋律の変化に目を向けるよう助言する等、指導に生かします。

記録に残す評価
 旋律の変化等に着目し、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように歌うかについての思いや意図をもつ過程や結果の状況を評価します。

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 【思・判・表①】

音楽を形づくっている要素(旋律、フレーズ、反復、変化など)を聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、ワークシートに記述(例:旋律の動きが少ないから、とんびがゆったりと飛んでいる様子を表している)し、思いや意図をもって歌っている。

Point

具体的な児童の姿を設定するために

- ・記述している言葉や発言の内容が具体的にどこまで表現できていればよいのか明確にする。
- ・本時の中の評価する学習場面を決める。

評価方法の例

- ・どのように工夫して歌いたいかについて、発言したり歌い表そうとしたりしている。
- ・感じたことや音楽の特徴等に触れながら、どのように歌いたいか、思いや意図をノート等にも書いている。



学習評価で大切にしたいこと

「知識」は〔共通事項〕アが活用されているかを評価

「知識」は、形や色などの名前を覚えるような知識のみを表すのではなく、児童が自分の感覚や行為を通して理解したものです。評価する際には、児童が形や色などの感じ等に注目している様子を捉え、造形的な視点として分かっているかどうかを各題材で評価していきます。

「思考・判断・表現」は「発想や構想」と「鑑賞」を評価

「思考・判断・表現」の評価は、〔共通事項〕イの「自分のイメージ」をもちながら「発想や構想」と「鑑賞」をそれぞれ評価し、題材の最後に総括します。そのためには、表現と鑑賞を関連させた題材を実施するといった授業改善が大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を参考にして評価規準を設定することが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。 	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。	つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

上記の「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右の図画工作科の内容のまとまりを確認し、題材の具体的な内容も加えて、題材の目標や評価規準を作成します。

図画工作科 内容のまとまり	「造形遊び」	「A表現」(1)ア(2)ア、〔共通事項〕アイ
	「絵や立体、工作」	「A表現」(1)イ(2)イ、〔共通事項〕アイ
	「鑑賞」	「B鑑賞」、〔共通事項〕アイ

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、当該学年の「観点的趣旨」を踏まえて作成する。学習指導要領の「2 内容」には、「学びに向かう力、人間性等」について示されていないので、「1 目標」にある該当学年の目標(3)を参考に作成します。
- ・題材目標に「楽しい(豊かな)生活を創造」はあってもいいが観点別評価には入れない。「学びに向かう力、人間性等」から、観点別に学習状況を評価するものだけを「主体的に学習に取り組む態度」に示します。例えば、低学年の「形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う」は個人内評価のため入れないようにしましょう。

Point

題材に即して「表現する活動」や「鑑賞する活動」を具体的に示す評価規準を作成する。

(例)「…進んで水彩絵の具で絵に表す学習活動に取り組もうとしている。」

(中学年 絵や立体、工作)

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識」については、〔共通事項〕アの「形や色など(低学年)」を視点として理解や活用できているかを、児童の様子と「A表現」では作品から、「B鑑賞」ではワークシートから教師が読み取ります。そして、「知識・技能」は、「知識」と「技能」の評価を考え合わせて総括します。

思考・判断・表現

各題材で「発想や構想」と「鑑賞」をそれぞれ評価し最後に総括します。そのためには表現と鑑賞を関連させ、双方を評価していくことが大切です。その際、双方の観点到〔共通事項〕イを「自分のイメージをもちながら」と示して一緒に評価します。

主体的に学習に取り組む態度

児童の学習状況だけでなく、粘り強く学習を調整しているかを状況把握するために題材の最初から最後までをしっかりと見取ります。評価する際には、発想や構想することや技能を働かせること、鑑賞することに進んで取り組んでいるかを見取り、題材の最後に評価を総括します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価とは

特に題材前半では、努力を要する状況の児童を中心に、児童への説明を変えたり、材料や技法を試す場の準備をしたり等の手立てや授業改善を行って、評価を次の授業に生かすことが大切です。

2 3観点を題材の中でバランスよく適切に評価

観点別学習状況を記録に残す場面を精選するためには、題材のまとまりの中で各観点の評価ができるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、具体的に評価の時期や評価方法等を考えておくことが重要です。

(例) 第4学年「A表現」と「B鑑賞」の授業を関連させた授業 ◇題材名 音楽会の記念CDジャケットをつくろう！
～曲のイメージにあった形や色を組み合わせよう～

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 作品を表現したり鑑賞したりする際に、自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。</p> <p>② 材料や用具を適切に扱い、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p>① 形や色などの感じを基に、音楽会の曲のイメージをもちながら、感じたことから、表したいことを見付けることや表したいことを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p>② 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺</p> <p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺</p>

※ ① 知識、② 技能、③ 発想や構想、④ 鑑賞、⑤ 態度 (表現)、⑥ 態度 (鑑賞)

◇ 指導と評価の計画 (全7時間) ※○…学習状況を把握し指導に生かす場面 ◎…学習状況を記録に残す場面

時	主な学習活動	知	思	主	2 評価規準・評価方法	指導に生かす評価
1	・美術作品を鑑賞し、形や色などの感じに気付く。	○	○	○	① (児童の様子、ワークシート) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりしている。	題材前半の○では、児童の学習状況から、個に応じた手立てや授業改善を行います。
2	・曲から感じ取ったことを基に、CDジャケットをどのように表すか考える。	○	○	○	② (児童の様子、ワークシート) 形や色などの感じを基に、音楽会の曲のイメージをもちながら、感じたことから、表したいことを見付けることや表したいことを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。	記録に残す評価
3		◎	◎	◎		
4	・曲のイメージから感じ取ったり考えたりしたことを基に、CDジャケットに表せるように創意工夫して創造的に表す。	○	○	○	③ (児童の様子、作品) 材料や用具を適切に扱い、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 ④ (児童の様子、ワークシート) 作品を表現したり鑑賞したりする際に、自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。	記録に残す評価
5		◎	◎	◎		
6		◎	◎	◎		
7	・完成作品を相互鑑賞し、題材のまとめをする。	◎	◎	◎	⑤ (児童の様子) つくりだす喜びを味わい進んで形や色と関わり、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

Point

「鑑賞」のワークシートを工夫する

本時の「鑑賞」の評価は、授業の様子や鑑賞のワークシート等から見取ります。同時に「知識」も見取るために、ワークシートの項目を工夫し、児童の発言も含めて評価しましょう。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表]
美術作品を鑑賞し、形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、作品の造形的なよさや面白さ、いろいろな表し方等について、感じ取ったり考えたりしている。



学習評価で大切にしたいこと

2 学年間を見通した題材計画

家庭科では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織した題材を構成し、教科目標の実現を目指しています。そのため、2 学年間を見通した題材の計画的な配列が必要です。題材計画に合わせた題材目標や評価規準を設定しましょう。

実践的・体験的活動と評価

日常生活に必要な知識及び技能は、実践的・体験的な活動を通して児童が習得します。児童の発達の段階や学習のねらいを考慮して製作、調理等の実習や、観察、実験等、適切な学習活動を設定し、評価を行いましょう。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す家庭科の「評価の観点及びその趣旨」を確認して評価の基本的な枠組みを捉えます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

なお、家庭科では、「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右記の「内容のまとめり」（項目）及び指導事項に関係する部分を抜き出し、題材の評価規準を作成します。

内容：B 衣食住の生活
項目：（5）生活を豊かにするための布を用いた製作
※家庭科では項目が「内容のまとめり」となります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、下記のⅠ～Ⅲの内容を含め、教科の目標（3）や学習内容に応じて設定します。

- Ⅰ 粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとすること）
- Ⅱ 自らの学習の調整（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりする中で自らの学習を調整しようとする）
- Ⅲ 実践しようとする態度（生活を工夫し、実践しようとする）

Point

題材の評価規準を作成する時には、下線の部分に学習指導要領に示す項目（内容のまとめり）を設定します。

第5学年 内容B（5）生活を豊かにするための布を用いた製作

題材の評価規準例 家族の一員として生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり（Ⅰ）、振り返ったりして（Ⅱ）、生活を工夫し、実践しようとしている（Ⅲ）。

3 観点を評価する上での留意点

知識・技能

主に家庭生活に関する内容を取り上げ、日常生活に必要な基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けているかどうかを、ペーパーテストや技能の確認テスト、実習を通じた実践記録表や行動観察等から評価します。

思考・判断・表現

習得した知識及び技能を活用し、身近な生活の課題を発見、解決する力等が身についたかどうかを、問題解決的な学習の中で評価します。解決方法を考え、実践し、振り返る場面等を捉え、自分の考えを理由を明確にして分かりやすく説明できるか等をワークシートの記述や発言等から判断します。

主体的に学習に取り組む態度

家族の一員として生活をよりよくしようと知識及び技能を活用しているか、考え工夫しているか、実践しようとしているかを評価します。題材の中で事前に評価時期を定め、ポートフォリオや実践記録表等の記述や行動観察等から評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価とは

努力を要する状況と判断される児童への支援と手立てを考えるための評価です。評価後は、例えば段階見本や拡大写真、タブレット端末等で動作の動画を見せる等、個に応じた指導の工夫が大切です。

2 問題解決的な学習の中で評価場面を位置付ける

家庭科では、家庭生活との関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れて目指す資質・能力を育成します。問題解決的な学習の中で、日常生活に必要な知識及び技能の習得や課題を解決する力が養われたか等を評価できる場面を精選し、位置付けましょう。

(例) 第5学年 内容B (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ◇ 題材名 手縫いでオリジナル小物を作ろう
◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ②手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。	①生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	・身の回りの針と糸を使って作られているものを振り返る。 ・裁縫用具の種類を知る。	知	○	[知・技①] (ワークシート) ・裁縫用具の種類が分かっている。
2 3	・玉結び、玉どめ、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを練習する。	知	○	[知・技②] (観察・練習布) ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを理解し、適切にできる。
4 5	・玉結び、玉どめ、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを理解し、適切にできる。	知	○	[知・技②] (観察・試験布) ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを理解し、適切にできる。
6	・オリジナル小物の作品の設計図を考え、製作計画を立てる。	思	○	[思・判・表①] (設計図・製作計画表) ・生活を豊かにするためのオリジナル小物の製作図や製作計画について考え、工夫している。
10	・オリジナル小物の作品発表会をして、工夫点等を伝え合う。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート・観察・作品) ・生活を豊かにするためのオリジナル小物の製作について振り返って改善して生活を工夫しようとしている。

指導に生かす評価

練習の時間に、見本と同じように縫える児童やそうでない児童を把握し、個別の支援に生かすための評価です。

記録に残す評価

目標とした手縫いの技能が身に付いているか、練習と同様の内容を実践し、見本と比較して評価し、総括に生かします。

*例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準がより具体的になった児童の姿 [思・判・表①]

オリジナル小物の作品発表会を通して、生活を豊かにするために自分が工夫した点を理由を付けて説明したり、発表会后に友達の意見を聞いて更なる改善を考えたりしている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

- ・児童が、実感を伴って理解したことが具体的に記述できるように生活場面を想定した体験的な活動を実施する。
- ・事前に予想される児童の考えや工夫を複数予想する。

評価方法の例

- ・実習に関する計画や、考え工夫したことを記録した実践記録表
- ・実験や実習時の行動観察



学習評価で大切にしたいこと

指導事項の明確化

運動領域は、教科書がないため、各学年の指導内容及び指導方法の在り方について、児童の体力等を踏まえ、指導内容を明確にします。その上で、評価の観点に応じた評価方法を整理します。

評価の方法と時期を明確化

単元で重点的に指導し評価する事項を明確化するとともに、いつ、何を、どのように評価するかを計画します。体育科では、知識を理解した後、試行錯誤しながら技能が高まります。技能が十分高まるだけの期間を要することに留意して、記録に残す評価を設けることが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで、評価の基本的な枠組みを捉えることができます。体育科では、運動領域と保健領域があるため、その趣旨についてもそれぞれの内容を示しており、下記の「また、」以降が保健領域の趣旨になります。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	各種の運動の行い方について理解しているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。また、身近な生活における健康・安全について実践的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、身近な生活における健康に関する課題を見付け、その解決を目指して思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。また、健康を大切に、自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、〔運動領域〕は、学習指導要領の(3)「学びに向かう力、人間性等」における指導事項の文末を「～しようとしている」に変え、以下のⅠ～Ⅴに該当する内容で分けて、評価規準を作成します。「健康・安全」に関する内容は「～している」と表現します。〔保健領域〕は、学習指導要領の内容に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないことから、「主体的に学習に取り組む態度」については、各学年の目標の(3)「また、」以降の記述を基に作成します。

- Ⅰ 愛好的態度 (例 進んで取り組み、積極的に 等) Ⅱ 公正・協力 (例 きまりを守り、誰とでも仲良く 等)
Ⅲ 責任・参画 (例 場の準備、片付けを一緒に 等) Ⅳ 共生 (例 考えを認めたり 等)
Ⅴ 健康・安全 (例 場の安全に気を付けたり、安全に気を配ったり 等)

〔運動領域〕第1学年及び第2学年 「B 器械・器具を使つての運動遊び」



単元の 評価規準例

- ①腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうと(Ⅰ)している。
②順番やきまりを守り、友達の考えを受け入れ(Ⅳ)、誰とでも仲よく(Ⅱ)運動遊びをしようとしている。
③器械・器具や場の準備、片付けを友達と一緒に(Ⅲ)しようとしている。
④場の安全に気を付けている。(Ⅴ)

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識」は、運動の行い方をより詳しく言ったり書き出したりしている姿や実際に行っている姿等で見取り、「技能」は、運動をよりよくできる姿等で見取ることで、分けて評価します。

思考・判断・表現

「思考・判断」は、工夫しようとしていることが言動として表出される姿等で見取り、「表現」は、友達や教師に伝えたり、学習カードに書き出したりする姿等で見取ることで、分けて評価します。

主体的に学習に 取り組む態度

体育科では、運動に意欲的でない児童への配慮の必要性を教師と児童が共通理解し、その考えに基づいた行動ができるかを、評価の対象と捉える視点が必要です。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価とは

努力を要する状況と判断される児童への支援に生かします。例えば、絵図や写真でヒントを示す等、個に応じた指導を工夫することが大切です。

2 3観点をバランスよく評価

体育科では、3観点を毎時間評価するわけではなく、単元全体を通して3観点を評価します。その際、技を繰り返す、友達と作戦を立てる等、中心となる児童の学習活動とつなげて評価の観点を位置付けることが大切です。

(例) 第1学年及び第2学年 「B 器械・器具を使つての運動遊び」の授業

◇単元名 器械・器具を使つての運動遊び

◇単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マットを使った運動遊びの行い方について話したり、実際に動いてみたりしている。 ②マットに背中や腹などをつけて揺れたりいろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 ③手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせてブリッジしたりして遊ぶことができる。	①複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。 ②腕で支えながら移動したり、逆さまになつたりする動きを選んでいる。 ③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に擬態語や擬音語で伝えたり書き出したりしている。	①腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り、友達の考えを受け入れ、誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。 ③器械・器具や場の準備、片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

◇指導と評価の計画 (全6時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	・利インターン 運動遊びの紹介	主	1	[主④] (観察) ・マットのずれを見逃さず整えたり、危険な回り方をしないようにしている。
2	・前転がり、後ろ転がり、だるま転がり ・転がり方を組み合わせる	知		
3	・腕支持での川跳び ・腕支持で平均台跳び ・腕立て横跳び越し	思	○	[知識・技能③] (観察) ・跳び箱を使つたり、肋木を使つたりして、遊ぶことができる。 ・仰向けや倒立からのブリッジを試し、遊ぶことができる。
4	・跳び箱を使った運動遊び ・肋木を使った運動遊び ・さかさまからのブリッジ	技		
5	・コースを設定しグループでいろいろな運動遊びで楽しむ ・グループ同士で紹介し合つて楽しむ	思	○	本時 [思・判・表①] (観察、学習カード) ・複数のコースの特徴に応じて、いろいろな転がり方を選び、遊んでいる。 ・自分のしたい転がり方が行いやすい場を選び、遊んでいる。
6	・他のグループが行つた運動遊びを楽しむ ・もっと楽しくなるよう運動遊びを工夫し、動きのバリエーションを楽しむ	技		

指導に生かす評価

活動中、安全へ留意している様子が見られない場合は、安全な場づくりや動きの必要性等の絵図や動画を示し、個別に支援します。

記録に残す評価

コースの特徴の理解と、転がる動きの習得が進んだ上で、観察と学習カードで評価するよう留意します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]

自分のしたい転がり方とコースの特徴を踏まえて、コースを選んだ理由を話したり書いたりしている。

Point

具体的な児童の姿を設定するために

単元の目標に到達した児童は、どんな発言や様子が見取れる姿なのか、活動の内容や場面と関連付けながら考えておくことが大切です。学習カードの記述へ評価を返す際、その姿を思い浮かべてコメントを書くことで、教師と生徒が評価規準を共有する機会にすることができます。



学習評価で大切にしたいこと

目標・指導・評価の一体化

児童に付けたい力を明確にし、その力を育成するための単元構成を考え、指導を行いましょ。児童と「中心となる言語活動」を共有した上で指導を行い、評価することが大切です。

多面的・多角的な評価

学期末等、複数の単元の学習の後、ポスターの作成、発表、やり取りや、グループでの話し合い等といった多様な活動に取り組みさせるパフォーマンステストを実施し、評価を行います。

評価の観点及びその趣旨

外国語科における「内容のまとまり」は、五つの領域（聞く、読む、話す〔やり取り、発表〕、書く）であり、領域別に3観点で評価します。「教科目標」「内容のまとまりごとの評価規準」等に基づき、各学校が生徒の実態等に応じて「学年ごとの目標」を設定した上で、「単元ごとの評価規準」を作成します。下記に示す「評価の観点及びその趣旨」も合わせて確認します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解している。 読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」については、「知識・技能」「思考・判断・表現」で重点とする内容を踏まえた上で、「粘り強さ」「自らの学習の調整」の二つの面から評価します。外国語科では、基本的に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は「思考・判断・表現」の評価規準と一体的に設定します。

また、単元で身に付ける資質・能力を児童と共通理解し、言語活動の振り返りで、自らの成果や課題、次への目標を明らかにさせ、その取組状況を、特定の領域・単元だけでなく、年間を通じて見取ることも大切です。

「話すこと【やり取り】ウ」第5学年

自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合おうとしている。

Point

評価規準は、各領域の「基本的な形」を参考にして作成することができます。左記の【やり取り】では、「【目的等】に応じて、【話題・事柄】について読んで、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。」が「基本的な形」として例示されています。

単元の評価規準例

相手のことを理解したり、自分のことを伝えたりするために、自分や相手の行きたい国のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているかどうか、それらを実際のコミュニケーションにおいて活用する技能を身に付けているかどうかを評価します。

思考・判断・表現

コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、話される内容を理解したり、自分の考えや気持ちを表現したりしているかどうかを評価します。

主体的に学習に取り組む態度

自分の考えや気持ちを伝え合うことの楽しさや言葉の大切さを実感しながら粘り強く学習に取り組む、問題解決の過程を振り返って改善しようとする態度を身に付けているかどうか、自ら英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けているかどうかを評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画 ①と②のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 記録に残す評価を補完
 記録に残す評価場面のない授業においても、指導改善や児童の学習改善に生かすために、児童の学習状況を継続的に確認し、単元や学期末の評価を総括する際の参考にします。

2 何を、どのように、いつ見取るか
 単元の中で、3観点5領域で見取る場面を適切に設定します。この単元では「話すこと【やり取り】」における「思・判・表」を中心に見取るように年間で計画を立てることが重要です。

(例) 第5学年「話すこと【やり取り】」の授業 ◇ 単元名 世界地図を見ながら、お互いの行ってみたい国についてよく知ろう
 ◇ 単元の評価規準 「話すこと【やり取り】」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①行きたい国について尋ねたり答えたりする表現や説明する際に用いる形容詞について理解している。[知識] 行きたい国について尋ねたり答えたりする表現や説明する際に用いる形容詞を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。[技能]	①相手のことを理解したり、自分のことを伝えたりするために、自分や相手の行きたい国のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。	①相手のことを理解したり、自分のことを伝えたりするために、自分や相手の行きたい国のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全8時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
4	・行きたい国について尋ねたり答えたりする表現や説明する際に用いる形容詞を学ぶ。 ・相手に薦める表現を学ぶ。	1 主 (思)		[主①] (活動の観察、振り返りシート点検) ・既習表現を使って、行きたい国について尋ねたり答えたりしようとしている。
6	・ペアで、お互いにお薦めの国について伝え合うやり取りを繰り返し行う。	2 知	○	[知・技①] (活動の観察、振り返りシート点検) ・既習表現を使って、行きたい国について尋ねたり答えたりしている。
7	・自分の行きたい国とその理由について説明し、ペアでやり取りをする。	知	○	[知・技①] (活動の観察、振り返りシート点検) ・既習表現を使って、行きたい国について尋ねたり答えたりしている。
8	・世界地図を基に、自分の行きたい国とその理由について説明し、ペアでやり取りをする。	本時 思	○	[思・判・表①] (活動の観察、振り返りシート点検) ・やり取りをするなどして、自分の考えを伝え合っている。

指導に生かす評価
 英語での言語活動(やり取り)の状況を見取り、努力を要する状況の児童を中心に、教師がペアになったり、活動後に全員一斉に尋ねたりして指導します。

記録に残す評価
 ペアを替える等して、全員の児童の言語活動(やり取り)の状況を段階的に記録に残します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 【思・判・表①】
 世界地図を基に、相手のことをよく知るといった目的や場面、状況に応じて、自分の行きたい国とその理由について説明し、やり取りをするなどして、ペアで自分の考えを伝え合っている。

Point 【やり取り】の見取り方
 教師が1時間で児童全員のやり取りを見取ることは現実的ではありません。全員の見取り方として、例えば、単元の途中のある時間に、やり取りが十分できる児童を優先的に見取り、記録します。その見取りを踏まえ、次時では、前時でやり取りが不十分と判断された児童を優先的に見取り、指導します。最終時では、それまでにやり取りが不十分だった児童が改善されていた場合に記録に残すことが考えられます。また、学期に1回程度のパフォーマンステストを実施し、評価の妥当性や信頼性を高めることも大切です。



学習評価で大切にしたいこと

年間を見通した学習評価

特別活動は、活動の積み重ねにより年間を通して児童の資質・能力の育成を図ります。各活動・学校行事における顕著な児童の姿は、補助簿等を活用して記録しておきます。

新たな目標や課題がもてる学習評価

特別活動では、児童が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題をもてるようにする評価を進めることが必要です。そのために、活動の過程における児童の努力や意欲等を積極的に認めることが大切です。

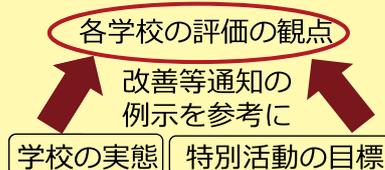
評価の観点及びその趣旨

特別活動は、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者である各教育委員会ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。下記に示す「評価の観点及び趣旨」は、各学校において評価の観点を設定する際の参考になります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

Point 各学校における評価の観点の設定

評価の観点は、学校の実態、学習指導要領の特別活動の目標を踏まえ、改善等通知の例示を参考に各学校で設定します。その際、学校として大切にしたい内容を踏まえた評価の観点になるようにするため、次の手順を参考に教員間で意見交換する場を設け、共通理解を図ることが大切です。



◇ 児童の具体的な姿を考える

特別活動における資質・能力の視点（自己実現）を重視した学校の例

学級や学校の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとしている。

◇ 具体化した姿から評価の観点を設定する

「観点名」
主体的に目標を立てて
共によりよく生きようとする態度

重視する内容を踏まえた評価の観点にするためには、左の具体的な児童の姿を基に、キーワードを選んで観点を設定します。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

特別活動における「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、次の三つの内容を含めて評価規準を作成します。

- I 粘り強さ（例：粘り強く、積極的に、進んで 等）
- II 自らの学習の調整（例：見通しをもって、振り返りを通して）
- III 自己のよさや可能性等に関すること（例：自己のよさを發揮、責任を果たして 等）

第5学年及び第6学年「学級活動（1）学級や学校における生活づくりへの参画」

学級活動の 評価規準例

楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら（II）、自己のよさを發揮し、役割や責任を果たして（III）積極的に（I）集団活動に取り組もうとしている。

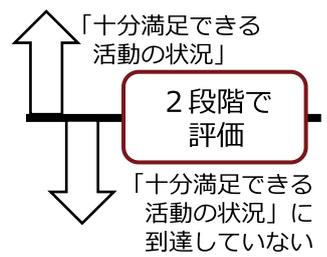
Point

学級活動については、低・中・高学年ごとに評価規準を作成することが望まれます。児童会活動、クラブ活動、学校行事については全学年共通の評価規準を作成します。

学習評価における留意点

「十分満足できる活動の状況」を2段階で評価

特別活動では、2段階で評価を行います。その際、学級会ノートにおける事前の意見や実践後の振り返り等の記述を参考にしたり、話し合いや実践の様子を観察したりしながら機会を捉えて評価することが大切です。なお、「十分満足できる活動の状況」については、他の教科等と同様に具体的な児童の姿で評価規準を設定することが大切です。



観点別学習状況の評価の総括

学期や年間を通して一覧で確認できる評価補助簿を活用すると、事実に基づいて評価の総括ができます。ここでは、学級活動を例に挙げていますが、児童会活動、クラブ活動、学校行事についても同様に評価を記録しておくことで、評価の総括に役立てることができます。

総括して○を付ける際には、学校で方法を統一しておく必要があります。例えば、「知識・技能」において○が付いていなくても、他の観点で複数○が付いている場合、総括において○を付けることも考えられます。

〈学級活動（1）における評価補助簿の例〉

※○は、各時間や総括において、「十分満足できる活動の状況」を示します。

番号	名前	知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
1	A		○○○	○○	9/28 学級会でみんなが納得するアイデアを改善策として発表していた。	○
2	B			○		
3	C	○	○○	○○○	5/20 役割に見通しをもって準備をしたり休み時間にクイズを考えたりして、お楽しみ会でみんなを楽しませる等、主体的に活動した。	○

一連の学習過程を通して、「十分満足できる活動の状況」の場合、観点別に○を付けたりメモ欄にその様子の記述に日付を加えて記録したりします。設定している評価規準に照らして「十分満足できる活動の状況」と判断したタイミングで観点別に○を付けます。特別活動は、全員を一律に「記録を残す評価」として見取ることができない場合もあることを踏まえて、年間を通じて継続的に評価補助簿で記録していくことが大切になります。

指導要録における特別活動の記録

番号	名前	学級活動（1）の補助簿の総括評価	学級活動（2）（3）の補助簿の総括評価	指導要録
1	A	○		○
2	B		○	
3	C	○	○	○

A児のように、学級活動（2）（3）の補助簿において総括評価に○を付けていない場合でも、学級活動（1）において、創意工夫を生かして話し合う活動を評価した場合、指導要録に○を付けることも考えられます。

C児のように、学級活動（1）及び（2）（3）の総括評価がどちらも○の場合、指導要録に○を付けます。

「十分満足できる活動の状況」の児童の姿

本時の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに設定した評価規準に即して、事前・本時・事後における「目指す児童の姿」を具体的に設定します。一例として、卒業アルバムの学級ページについて話し合う本時の学級活動（1）〔第6学年〕の評価規準例を示します。

◇ 評価規準〔思・判・表〕（観察・学級会ノート）
 学級のみみんなの願いが詰まった卒業アルバムの学級ページにすることを踏まえた上で、それぞれの意見に込められた思いや学級全体にとっての価値に着目しながら、二つの意見を統合する等よりよい考えに練り上げていけるように話し合いを進めている。



学習評価で大切にしたいこと

指導する領域の明確化

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を「思考・判断・表現」の一つの観点で評価します。単元の中でどの領域を重点的に指導するのかを明確にして、授業をつくることが求められます。

指導事項を達成するための言語活動

単元の目標を達成するために、学習指導要領の言語活動例を参考して、適切な言語活動を設定します。「活動あって学びなし」の状態にならないように、活動のみで終わらず、指導事項の指導と評価を確実に行うことが必要です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、国語科においては基本的には「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記のⅠ～Ⅳの内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。何の指導事項に重点を置いて、この単元で指導するのか考えることが必要です。

- Ⅰ 粘り強さ（例：積極的に、進んで、粘り強く等）
- Ⅱ 自らの学習の調整（例：学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等）
- Ⅲ 他の2観点〔知識・技能〕〔思考・判断・表現〕において、重点的に指導する内容
- Ⅳ 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

Point

具体的な言語活動とは例えば、自分の考えを文章にまとめたり、伝え合ったり等の言語活動です。

第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕「B 書くこと 工」（言語活動例：B(2)イ）
本単元の言語活動：社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動

単元の評価規準例：粘り強く（Ⅰ）、表現の効果など確かめて文章を整え（Ⅲ）、これまでの学習を生かして（Ⅱ）、お礼状を書こうとしている（Ⅳ）。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「思考力・判断力・表現力等」の指導の中で、例えば「読むこと」の学習を通し、語彙等の習得状況を評価することが基本です。言葉のきまり等を取り上げて、ある程度のまとまった「知識及び技能」を指導し評価することもできます。

思考・判断・表現

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を評価する上で、年間指導計画を基に、3領域の配当時間数が適正になるように指導と評価をします。学習の中で自分の意見を思考し表現するような場面を設けて、発言や記述に着目し評価します。

主体的に学習に取り組む態度

具体的に設定した意見交流会等の言語活動を通しての学習への取組を評価します。例えば、発表会に向けて、自分の文章の表現を繰り返し修正している姿や、目的に合うように、既習の言語知識等を生かそうとしている姿等から見取ります。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価

授業の中で努力を要する状況を見取って目標達成へ向けて支援します。例えば、「書くこと」では「考えの形成」「記述」「推敲」等を繰り返しながら、重点とする内容の定着を図ります。

2 3観点をバランスよく評価

3観点を毎時間評価をするわけではありません。国語科では、言語活動の流れを踏まえ、単元の評価規準を基に、それぞれの時間の評価規準を考え、効果的な時間で3観点を設定します。

(例) 第2学年「B 書くこと」の授業 ◇ 単元名 「職場体験学習」でお世話になった方へお礼状を書こう
◇ 単元の評価規準 ～読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整える～

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。	①「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめ、文章を整えている。	①粘り強く、表現の効果などを確かめて文章を整え、これまでの学習を生かして、お礼状を書こうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全3時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> お世話になった方へ、お礼状を書くという単元の見通しをもつ。 お礼状の書式や既習の敬語について確認してから、下書きを書く。 	1 思		[思・判・表①] (下書き) ・読み手の立場に立ち、表現の効果等を確認、下書きを書いている。
2	<ul style="list-style-type: none"> 4人グループで下書きを読み合い、推敲のポイントに従い、コメントを付箋に記入していく。 付箋を基に、表現の効果について各自確かめ、自分の下書きを推敲する。 	主	○	[主①] (観察・下書き) ・具体的な事例の効果や敬語の使い方等に注目して、読み手にお礼の気持ちが伝わるように修正しようとしている。
3	<ul style="list-style-type: none"> 推敲をした下書きを基に、お礼状を清書する。 宛名書きをして発送の準備をする。 単元の振り返りをする。 	2 知 思	○ ○	[知・技①] (清書・下書き) ・尊敬語、謙譲語、丁寧語を適切に使用している。 [思・判・表①] (清書・下書き) ・感謝の気持ちが伝わるように、具体例の表現の効果等を確認、文章を整えている。

指導に生かす評価

単元の前半では、「推敲」等の重点的に指導する内容を明確にして生徒と目標を共有します。授業の中で、個々のつまづきの状況を見取り、表現の効果を再確認させる等の支援を行います。

記録に残す評価

言語活動の最後等に、重点とした内容が身に付いているかどうかの学習状況を記録に残します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

お世話になった方へ感謝の気持ちを伝えるために、具体例等の記述が分かりやすいかどうかを友達からの付箋等を基に判断し確かめて、自分の文章を見直し修正してお礼状を書いている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

- ・指導事項と教材や言語活動の内容に合わせて、生徒へ期待する姿(発言や記述)を考える。
- ・記述している言葉や発言の内容が具体的にどこまで表現されていればよいのか明確にする。
- ・「自分の考えを記述する場面」等、本時の中で適切に評価する学習場面を決める。

評価方法の例

- ・文章の中から、どの言葉を選んで書いているか等のノート記述
- ・意見交流をしている様子等の観察メモ
- ・ノート等への自分の考えの記述
- ・完成した作文等の作品



学習評価で大切にしたいこと

単元を見通した学習評価

社会科では、単元のまとまりを見通して学習課題を設定し、資料等を調べ、多面的・多角的に考察したり、選択・判断したりしながら、学習課題を追究・解決します。そのため、単元を見通した目標や評価規準を設定することが重要になります。

学習改善へ向けた評価

生徒に学習の見通しをもたせるため、社会的事象についてどのような記述があればどう評価するか等、評価の方針や方法を生徒に事前に伝え、それを生徒の学習改善につなげることが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、次に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

中学校社会科は、中項目を内容のまとまりとします。そのため、「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の評価規準とすることが基本になります。しかし、単元によっては、「内容のまとまりごとの評価規準」を基にして、小項目を単元とする場合も考えられます。

C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域	大項目 中項目 小項目
①中国・四国地方 ②中部地方 等	

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記の視点を踏まえ、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。

- I 知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向け粘り強い取組を行おうとする側面
- II 粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面

Point

「単元の評価規準例」には、(I)と(II)の2つの側面を位置付け、「課題を主体的に追究しようとしている」としています。

第2学年 地理的分野「C 日本の様々な地域(3)日本の諸地域」(中部地方)

単元の評価規準例	中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている(I)(II)。
----------	--

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

地名や歴史上の人物等の語句を暗記していることだけを評価するではありません。社会的事象を自分事として捉え、既習の知識及び技能と関連付けて理解し、社会生活の場面での活用につながる知識や技能となっているかを評価します。

思考・判断・表現

社会的事象から学習課題を見だし、比較したり関連付けたり総合したりしながら社会的事象の特色や意義を考えているか、また、学習内容を自分事として捉え、社会への関わり方を選択・判断したりして表現しているか等の学習状況を捉え、評価します。

主体的に学習に取り組む態度

社会的事象について、学習課題を主体的に追究・解決しているかを評価します。例えば日本の漁獲量についてまとめた表を作成する場合、作成方法等について試行錯誤しながら主体的に進めているか等の学習状況を捉え、評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 評価内容・方法の明確化

知識・技能を評価する場合、資料等から何を読み取ってまとめ、社会的事象について何をどのように理解していればよいのか、それをどのような方法で見取るか等を明確にします。

2 記録に残す評価場面の設定

単元の学習過程を踏まえ、記録に残す評価場面を設定します。例えば、学習課題を追究し、社会的事象を比較したり関連付けたりする等、生徒の姿が最も見取りやすい時間に位置付けます。

(例) 地理的分野「C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域」の授業 ◇ 単元名「中部地方」

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ②産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。	①中部地方において、産業を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き等に注目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	①中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全5時間)

時	主な学習活動	重点	記録	1	評価規準・評価方法
2	・中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。	知			[知・技①] (ノート) ・中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。
3	・中部地方の産業における特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。	知	○	2	[知・技②] (ノート) ・産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。
4	・資料を収集し、工業の発展の条件について読み取り、意見を交換して考えをまとめ、東海地区でなぜ工業が発達したのかという理由を考察する。	思	○	本時	[思・判・表①] (ワークシート) ・東海地域で工業が発達した理由について、地理的・歴史的条件等と関連付けながら考察し、表現している。
5	・中部地方の産業について、課題や解決策を主体的に追究する。	主	○		[主①] (発言・ワークシート) ・中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

指導に生かす評価

資料から必要な情報や全体的な傾向を読み取ることに困難がある場合は、複数の資料を示す、資料の一部を強調する、資料を読み取る視点を示す等が考えられます。

記録に残す評価

個々の社会的事象を比較したり関連付けたりしながら考察した記述を見取り、生徒の特徴をメモする等、全生徒の学習状況を記録します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 【思・判・表①】

東海地域で工業が発達した理由について、「濃尾平野が広がっていることから、工業用地が確保できる」、「近くに名古屋港があり高速道路等の交通網も発達していることから、製品の輸送に便利である」等、地理的条件と関連付けながら考察したことを、ワークシートに記述している。

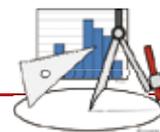
Point

具体的な生徒の姿を設定するために

生徒の実態を把握し、どの資料をいつ提示し、社会的事象の何について捉えさせたいかを明確にして授業を行います。

評価方法の例

- ・社会的事象が起こった原因と結果について、根拠を挙げながら表現しているか等の記述
- ・地図、統計等の資料からどんな情報を読み取ったかが分かるノートやワークシートへの記述



学習評価で大切にしたいこと

数学的活動を通して資質・能力を育成

数学的活動には、現実的な事象と数学の事象を対象とした問題解決の活動があります。これらは学習評価においても重要です。生徒が外の世界と数学を結び付け、数学を生かして事象を捉え、数や図形の性質等を見いだし発展しているか等を見取ります。

数学的に考える資質・能力を明確にし、評価

数学的に考える資質・能力を評価するには、数学を用いてどのように着目できるようになるか、式、図、表、グラフ等を用いて数学的な表現ができるようになるか等、指導事項を基に生徒の姿で明確にすることが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、「評価の観点及びその趣旨」は数学科の目標を基に、語尾を「～している」と変更することで捉えることができるようになってきています。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、数学科においては「内容のまとめり」をそのまま「単元」と捉えることが可能です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

数学科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、以下のⅠ～Ⅳを全て含め「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項も参考に作成します。

- Ⅰ 粘り強さ (例：粘り強く考え)
- Ⅱ 数学を学ぶ意義 (例：数学を生活や学習に生かそうと)
- Ⅲ 自らの学習の調整 (例：問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする)
- Ⅳ 内容のまとめりに対する学習の対象 (例：正の数と負の数、一次関数、二次方程式 等)

Point

自らの学習を調整しようとする側面は、下記の②③を踏まえます。

第2学年「C 関数(1) 一次関数」

単元の
評価規準例

- ①一次関数の(Ⅳ)意味を粘り強く考え(Ⅰ)ようとしている。
- ②一次関数について(Ⅳ)学んだことを生活や学習に生かそうと(Ⅱ)している。
- ③一次関数を活用した(Ⅳ)問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとして(Ⅲ)している。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

基礎的な概念の理解や原理・法則を理解しているかについても評価の対象となります。知識の暗記や機械的な計算の技能を身に付けているかを評価するだけでなく、例えば、計算の場合、手続きの基になっているものがあることを理解しているか等も見取る必要があります。

思考・判断・表現

「評価の観点及びその趣旨」で示されている三つの力(論理的に考察する力、統合・発展的に考察する力等)を評価します。評価では、現実的な事象を理想化・単純化して数学的に捉える場面や、数学的な表現を用いて説明し伝え合う場面等、数学的活動の過程と関連付けた評価場面の設定が必要です。

主体的に学習に取り組む態度

自らの学習を調整しようとする側面を見取るには、生徒が問題解決の過程や学んだことの意義を振り返ることが必要です。評価場面では、新たに得た数学の考え方を今後の学習や生活にどのように生かせそうか等、振り返る視点を教師が示すことも考えられます。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 現実的な事象と数学の事象をつなぐ力を育成

記録に残す評価の段階で、生徒が現実的な事象の問題解決に既習の数学を活用している具体的な姿を想定します。その姿の実現に向けて、段階的に育成します。

2 数学的活動を見据えて評価場面を設定

数学的活動の充実を図るには、その際に用いる知識及び技能の定着が必要です。単元の節目で定着状況を把握する時間を設け、その上で、思考・判断・表現の評価場面を位置付けます。

(例) 第2学年「C 関数(1) 一次関数」の授業

◇ 単元名 一次関数

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①一次関数について理解している。 ②事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ③二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ④変化の割合やグラフの傾きの意味を理解している。 ⑤一次関数の式を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	①一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ②一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し、表現することができる。	①一次関数の意味を粘り強く考えようとしている。 ②一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全17時間)

時	主な学習活動	重点	記録	2 評価規準・評価方法	指導に生かす評価
11	・一次関数の特徴に関する練習問題に取り組む。 ・学習してきたことがどの程度身に付いているかを自己評価し、学習を振り返って分かったことや今後の学習に向けた考えを記述する。	知 主	○ ○	[知・技①～⑤] (小テスト) ・知識・技能①～⑤の内容を身に付けている。 [主②③] (振り返りの記述) ・これまでの学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	机間指導を行い、表、式、グラフを用いて表現できていない生徒を見取り、着目する例を個別に示す等の支援をします。
12	・長方形の辺上の点が動いたとき、頂点と動点を結んでできる三角形の面積について考察する。	思		[思・判・表①] (行動観察) ・数学的な事象から二つの数量を取り出し、その関係を表、式、グラフを用いて表現できる。	
15	・ダム貯水量を基に、水量の変化を理想化・単純化して一次関数とみなし、未知の値を予測する。その際、どのような方法・手順で値を調べたか説明する。	思	○	[思・判・表①] (ノート) ・現実的な事象から二つの数量を取り出し、その関係を表、式、グラフを用いて表現し、問題解決するための方法・手順を説明することができる。	記録に残す評価 問題解決するための方法・手順を説明できているか、ノートの記述を基に評価します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

貯水量の変化の様子から関数関係を捉え、「グラフの～を見ると…」 「一次関数は～だから式は…」のように、着目した関数の特徴を具体的に挙げながら、値を調べるための方法・手順を説明することができる。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

数学的活動では、生徒主体で問題解決に取り組むこととなります。評価規準を基に、生徒が目標に到達した姿を具体化しましょう。その姿を実現するためには、生徒が既習の内容やこれまでに取り組んだ問題解決の過程を想起し、参考にできるよう、構造化した板書や、板書に対応したノート指導等を日頃から行うことが大切です。



学習評価で大切にしたいこと

育成を目指す資質・能力を評価する学習場面の設定
理科では、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を図ります。3年間を通じて計画的に育成するために、3観点の特性を踏まえて探究の過程を通じた学習場面を設定することが大切です。

生徒の学習改善へ向けた評価の実施
生徒自身に学習の見通しをもたせるために学習評価の方針を事前に生徒と共有したり、評価の結果をフィードバックする際に、どのように評価したのかを改めて生徒と共有したりすることで生徒の学習改善へつなげることが大切です。

評価の観点及びその趣旨

下記に示す「評価の観点及び趣旨」は、教科の目標を踏まえて作成されている中学校理科全体のものであり、第1・2分野ごとにも「評価の観点の趣旨」が示されています。「指導と評価の一体化」を図るためには、目標と評価の関係を捉えておくことが大切です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

なお、中学校理科では、「内容のまとまり（＝大項目）ごとの評価規準」を基に、各分野ごとの「評価の観点の趣旨」も踏まえ、「単元（中項目ごと）の評価規準」を作成し、実際の指導と評価を行うことが一般的です。

(5)運動とエネルギー	大項目 中項目 小項目
(イ)運動の規則性	
⑦運動の速さと向き ⑧力と運動	

中学校理科の内容の例

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、自然の事物現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりする等、科学的に探究しようとしているかを、以下の二つの意思的な側面から評価します。

- I 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うようとしている側面
- II Iの粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

第3学年 (5)運動とエネルギー (イ) 運動の規則性の単元の評価規準例

単元の 評価規準例	運動の規則性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
--------------	---

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則等の理解、また、観察、実験の基本操作の習得とともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方等を身に付けているかを見取ります。見取る内容に応じて、発言、記述内容、行動観察、パフォーマンステスト、ペーパーテスト等から状況を把握します。

思考・判断・表現

自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験等を行い、その結果を分析して解釈する等、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、発言や記述内容、ペーパーテスト等から状況を把握し、小学校で身に付けた問題解決の力をさらに高めます。

主体的に学習に取り組む態度

自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりする等、科学的に探究しようとしているかを、発言や記述内容、行動観察等から状況を把握します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 記録に残す評価場面の精選

各時間では3観点のうち重点とする評価の観点を定め、単元を通して記録に残す評価の場面を精選します。評価規準を基に、単元を見通して最も効果的な時間に位置付けます。

2 日々の授業における指導に生かす評価

記録に残す評価場面以外においても、生徒の学習状況を把握して学習改善、指導改善に生かすことは重要です。例えば、分析・解釈に課題があれば考え方を示す等の働きかけを行います。

(例) 第3学年「(5)運動とエネルギー」(イ)運動の規則性の授業 ◇ 単元名 運動の規則性

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①運動の規則性を日常生活や社会と関連付けながら、運動の速さと向き、力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	①運動の規則性について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現しているとともに探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	①運動の規則性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	1 重点	記録	評価規準・評価方法	指導に生かす評価	記録に残す評価
2	身近な物体の運動の様子を調べる実験を行い、記録タイマーの正しい操作と物体の運動の様子を定量的に記録する技能を身に付ける。	知	○	[知・技①] (ワークシート) ・カ学台車に働く力を測定し、記録テープを適切に処理する方法を身に付けている。	生徒の学習状況を確認し、関係を見いだすことができている生徒へ注目するポイントを示す等、適切な働きかけや手立てを行います。	関係を見いだしているか、探究の過程を振り返っているかについて、全員の生徒の学習状況を記録し、単元の総括的な評価の資料とします。
3	物体の運動の様子を調べた実験結果を分析して解釈し、運動の規則性を見いだして理解する。	思	2	[思・判・表①] (ワークシート) ・実験結果から、力が働き続ける運動で「速さと時間」「移動距離と時間」の関係を見いだして表現している。		
8	【実験の実施、結果の処理、考察・推論】 ・実験室で台車を等速直線運動させるという課題を解決するために立案した実験を行い、その結果を分析して解釈し、改善策を考え実施する等して課題を解決する。	思	○	本時 [思・判・表①] (ワークシート) ・実験結果から、台車に働く力と台車の運動との関係を見いだして表現しているとともに探究の過程を振り返っている。		
9 10	【表現・伝達】 ・探究活動をポスターにまとめて発表し、探究の過程を振り返る。	主	○	[主①] (観察、ワークシート) ・探究の過程を振り返り、よりよい探究方法等を検討したり、新たな問題を見いだしたりしようとしている。		

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

実験結果から、台車に働く摩擦力を打ち消す等、既習の知識を使って実験室で台車が等速直線運動する方法を見だし、自らの考えを導いたりまとめたりして表現しているとともに、課題に対して実験方法や考察が妥当であるか検討する等、探究の過程を振り返っている。

Point

具体的な生徒の姿の設定

何に気を付けて実験をすべきなのか、どのような考え方で分析・解釈したらよいか、どのような視点で振り返るか等、生徒に意識させたいことを明確にします。

評価方法の例

- ・ 実験結果を描画した実物とペーパーテストの結果を併せて評価する。
- ・ ワークシート等の記述を分析する。



学習評価で大切にしたいこと

「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」を指導・評価をする際のポイントとなる「音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など）」は、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を選択して評価します。

生徒の具体的な場면을想定した学習評価

音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けて指導することが大切です。例えば、表現の活動において、表したい思いや意図を言葉で伝え合いながら、実際に歌ったり演奏したりして音楽表現を高めていきます。その際、「おおむね満足できる」状況を想定し、授業をデザインすることがポイントとなります。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。題材の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、題材で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

音楽科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、意思的な側面を評価します。なお、音楽科では、下記の視点を踏まえ、題材の目標や学習内容等に応じて評価規準を設定します。

- I 文頭にその題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載する。
- II 扱う分野を選択して挿入する。

Point

「楽しみながら」の部分は、「主体的・協働的に」に係る文言であり、単に活動を「楽しみながら」取り組んでいるものを評価するものではありません。主体的・協働的に取り組む際に「楽しみながら」取り組めるよう指導を工夫しましょう。

第2学年及び第3学年「A表現 歌唱」



題材の評価規準例	歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わい（I）に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱（II）の学習活動に取り組もうとしている。
----------	--

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識・技能」は、題材単位では、その学習内容によって知識と技能に軽重を付けることも考えられます。その際は、一方に著しく偏ることがないようにすること、また年間を通じて知識と技能がバランスよく育成されることに留意する必要があります。

思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素の知覚・感受、また知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況进行评估します。

主体的に学習に取り組む態度

題材の学習に関心もてるようにしながら、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるか等について、題材のはじまりから評価していくことが大切です。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 題材内でのバランスの取れた評価計画の工夫

題材のまとまりの中で各観点の評価ができるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、バランスを考慮するとともに、具体的に評価の時期や方法を考えることが大切です。

2 評価の結果を記録に残す場面の精選

授業の中で常に生徒の状況を把握し、指導を行う中で、評価規準に基づいて生徒一人一人の状況を記録に残しますが、評価の結果を記録に残す場面をねらいに応じて精選します。

(例) 第2学年「A表現 歌唱」の授業

◇ 題材名

歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう

◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。[知識] ②創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。[技能]	①「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	①「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽表現を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全4時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
2	・音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、「荒城の月」を歌唱する。				
3	・「荒城の月」と対比しながら「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。	○ (知)	○	○	[知・技①] (ワークシート・観察) ・曲想と音楽の構造等との関わりについて理解するために、ワークシートにまとめたり意見を交流したりしている。 [思・判・表①] (ワークシート・観察) ・音楽を形づくっている要素の知覚・感受に基づく歌唱表現を創意工夫して表現している。
4	・曲にふさわしい表現で主体的に「早春賦」を歌唱する。 ・題材全体の学習の振り返りをする。	○ (技)		○	[知・技②] (演奏の聴取) ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能について学習した内容が歌唱表現に表れている。 [主①] (ワークシート・観察) ・学習活動に対して主体的・協働的に取り組んでいる。

指導に生かす評価

主体的に取り組む態度について継続的に評価します。支援が必要な生徒には風景写真を示す等、題材に関心をもち、旋律から雰囲気を感じ取らせる等、指導に生かします。

記録に残す評価

知覚・感受したことに触れながら、どのように歌いたいかについて、思いや意図をもつ過程や結果の状況を記録します。

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 【思・判・表①】

音楽を形づくっている要素 (リズム、速度、旋律の音のつながり、強弱) を知覚・感受し、そのこととの関わりについての考えをワークシートに記述 (例: 最後のフレーズは、残念な気持ちをppやrit.に込めて歌いたい) し、思いや意図をもって歌っている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

- ・記述している言葉や発言の内容が具体的にどこまで表現できていればよいのか明確にする。
- ・本時の中での評価する学習場面を決める。

評価方法の例

- ・どのように工夫して歌いたいかについて、発言したり歌い表そうとしたりしている。
- ・感じたことや音楽の特徴等に触れながら、どのように歌いたいか、思いや意図をノート等にも書いている。



学習評価で大切にしたいこと

「知識」は〔共通事項〕が活用されているかを評価

「知識」は暗記に終始するものではなく、「造形的な視点を豊かにするための知識」として、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果を理解することや、造形的な特徴等を基に、全体のイメージや作風等で捉えることを理解できているか評価します。

「思考・判断・表現」は「発想や構想」と「鑑賞」を評価

「思考・判断・表現」の評価は、「発想や構想」と「鑑賞」をそれぞれ評価し、授業外で総括します。そのためには、表現と鑑賞を関連させ、発想や構想でも鑑賞でも働く中心となる考えを、授業の中で効果的に生かす授業改善が大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を参考にして評価規準を設定することが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

上記の「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、下記的美術科の内容のまとまりを確認し、題材の具体的な内容も加えて、題材の目標や評価規準を作成します。

中学校美術科の内容のまとまり	感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現	「A表現」(1)ア(2)、〔共通事項〕
	目的や機能などを考えた表現	「A表現」(1)イ(2)、〔共通事項〕
	作品や美術文化などの鑑賞	「B鑑賞」、〔共通事項〕

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

- 学年の「観点及びその趣旨」との関連を考慮しながら、各題材の「知識・技能」、「思考・判断・表現」の評価規準と対応させて作成する。

各題材の「内容のまとまり」の「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価規準と対応させて、文末を「～しようとしている」等で示します。評価する際には、授業中に生徒の学習状況から見取るだけでなく、粘り強く学習を調整している状況を把握するために、題材のはじめから終わりまでをしっかりと見取ります。

- 題材の目標に「感性を育み」等はあってもいいが、観点別評価には入れない。

「感性を育み」等は3年間を通した大きな目標であり、観点別評価にはなじまないため、教師の声掛けやワークシートへの記述等で行う個人内評価で行います。「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準には含まないようにしましょう。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「A表現」の場合の「知識」は、「技能」が発想や構想をしたこと等を基に表す技能であるため、生徒の様子や作品から「技能」と一緒に見取ります。「B鑑賞」の場合は、生徒の様子やワークシートから見取ります。題材終了後に双方を総括することが考えられます。

思考・判断・表現

各題材において、「発想や構想に関する資質・能力」と「鑑賞に関する資質・能力」をそれぞれ評価し、題材の最後に授業外で双方を総括して評価することが考えられます。その際、表現と鑑賞を関連させ、バランスよく評価することが大切です。

主体的に学習に取り組む態度

題材において設定した「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を、生徒が学習活動の中で「楽しく」（第1学年、「主体的に」（第2学年及び第3学年）身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう態度を評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価

特に題材前半に、評価規準を通して生徒の学習状況を見取り、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげます。例えば、努力を要する状況の生徒を見て、その生徒への手立てや材料の追加をする等の授業改善を行います。

2 3観点をバランスよく評価

題材の中で、3観点をどこで見取り評価するかを教師が意識しておきます。題材の終了後に、「知識」と「技能」、「発想や構想」と「鑑賞」の評価をそれぞれ総括していくことが必要です。

(例) 第2学年「A表現」と「B鑑賞」の授業を関連させた授業 ◇題材名 ○○商品をアピールするパッケージを考える
◇ 題材の評価規準 ~商品の内容やよさ、特徴を効果的に相手に伝えよう~

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色などが感情にもたらす効果や商品の内容や造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表し、制作の順序などを考え見通しをもって表している。</p>	<p>発 商品のよさや特徴を伝えることなどを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 商品の特徴を伝える目的や調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に商品の特徴を他の人に分かりやすく伝えることを基に構想を練ったり、表現方法を追求して創造的に表したりする学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に商品の特徴を他の人に分かりやすく伝えることを基に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

◇ 指導と評価の計画 (全8時間)

※**知**知識、**技**技能、**発**発想や構想、**鑑**鑑賞、**態表**態度(表現)、**態鑑**態度(鑑賞)

時	主な学習活動	1 知	思	主	2 評価規準・評価方法
1	・本物の商品のパッケージを鑑賞し、表現の意図や工夫を読み取る。	知	鑑	態鑑	鑑 (生徒の様子、ワークシート) 商品の特徴を伝える目的や調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えている。 本時
2	・オリジナル商品のよさや特徴を、効果的に相手に伝えるパッケージを考える。	技	発	態表	発 (ワークシート) 商品のよさや特徴を伝えることを基に、伝える相手や内容から主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。
7	・主題を基に、商品パッケージの特徴を効果的に伝えることができるように創意工夫して創造的に表す。				技 (生徒の様子、作品) 意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表し、見通しをもって表している。 知 (生徒の様子、作品) 形や色などが感情にもたらす効果や商品の内容、造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解している。
8	・完成したパッケージを鑑賞し合い、表現の意図や工夫を読み取る。		鑑	態鑑	態鑑 (生徒の様子) 主体的にオリジナル商品の特徴を他の人に分かりやすく伝えることを基に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
授業外		知技	思判表		それぞれの観点を総括する。(作品、ワークシート他)

指導に生かす評価

題材前半の□では、生徒の学習状況から、つまずきを見取り、個に応じた手立てをする等、指導改善を行います。

記録に残す評価

題材後半の□では、題材の最後や授業外で、作品やワークシート等から各観点の評価を決定し、総括します。そのためには、必要に応じ、授業内で適宜記録を残しておくことも考えられます。

*例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表]

本物の商品を鑑賞して、その商品の特徴や調和のとれた美しさなどを感じ取り、それらを消費者に効果的に伝えるために、配色や構図等、作者の表現の意図や工夫などについて考えている。

Point 「鑑賞」のワークシートを工夫する

本時の「鑑賞」の評価は、授業の様子や鑑賞のワークシート等から見取ります。同時に「知識」として(共通事項)が活用できたかを見取るために、ワークシートの項目を工夫することが必要です。



学習評価で大切にしたいこと

技能の向上を意識した指導と評価

第1・2学年では、各単元の初めに小学校からの学習内容の系統性を考えて、生徒の実態を踏まえ、指導事項を配置します。また、技能の高まりに要する時間も考慮して、単元計画に評価場面を位置付けます。

指導事項間の関連を図る工夫

例えば、パスやシュート等、技能のポイントを知識として学ぶ機会を設け、練習場面を設定し実際に練習した上で、その評価を行います。練習を通して得た気づきを踏まえて、話し合いの場面で他者へ伝えている内容を基に評価できるように、場面設定することが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。中学校保健体育科では体育分野と保健分野があるため、下記の「また、」以降を保健分野の趣旨として示しています。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、〔体育分野〕は、学習指導要領の(3)「学びに向かう力、人間性等」における指導事項の文末を「～しようとしている」に変え、以下のⅠ～Ⅴに該当する内容で分けて、評価規準を作成します。「健康・安全」に関する内容は「～している」と表現します。〔保健分野〕は、学習指導要領の内容に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないため、「主体的に学習に取り組む態度」については、保健分野の目標の(3)を参考にします。

- Ⅰ 自主的、積極的な態度 (例 自主的に、積極的に 等) Ⅱ 公正、協力 (例 ルールやマナーを、フェアな 等)
Ⅲ 責任、参画 (例 場の準備、片付けを、一緒に 等) Ⅳ 共生 (例 一人一人に応じた、仲間の学習を援助 等)
Ⅴ 健康・安全 (例 健康・安全に気を付ける 等)

〔体育分野〕第1学年 「E 球技(ゴール型) バスケットボール」



単元の 評価規準例

- ①学習に積極的に(Ⅰ)取り組もうとしている。
- ②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助(Ⅳ)しようとしている。
- ③マナーを守ったり、フェアなプレイを守ったり(Ⅱ)しようとしている。
- ④作戦等についての話し合いに参加(Ⅲ)しようとしている。
- ⑤健康・安全に留意(Ⅴ)している。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

体育分野では、「知識」と「技能」の評価規準に分けて設定します。保健分野では、ストレスへの対処と応急手当で技能を含みますが、「知識」と「技能」を分けることなく相対的に捉えて指導し評価します。

思考・判断・表現

「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定します。「思考・判断」の評価は「知識」の評価と混同しないように、なぜそう考えたのかを問う等、思考のプロセスを評価します。

主体的に学習に 取り組む態度

課題解決に向けての話し合いの姿や既習技を活用し学習に進んで取り組もうとしている姿や単元のゴールへ向けて自分でよりよいやり方を考え、工夫している姿等の意思的な側面を評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価

生徒の学習状況を見取り、支援に生かす評価です。例えば、自他の技と完成技を動画で比較することで、生徒は共通点や相違点に気がきます。その上で、個別の支援をします。

2 3観点をバランスよく評価

3観点を毎時間評価するわけではありません。例えば、練習して習得した技能を評価する時間や試合への取り組み方を評価する時間等、学習状況を見取る場面を重点化して評価します。

(例) 第1学年 「E 球技 (ゴール型 バスケットボール)」の授業
◇ 単元の評価規準

◇ 単元名 球技 (バスケットボール)

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①バスケットボールには、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、話したり書き出ししたりしている。 ②バスケットボールにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスをだすことができる。 ③パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。	①学習に積極的に取り組もうとしている。 ②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ③マナーを守ったり、フェアなプレイを守ったりしている。 ④作戦等についての話し合いに参加しようとしている。 ⑤健康・安全に留意している。

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法	指導に生かす評価
1	オリエンテーション ボール慣れゲーム	知	1	[知識①] (観察、学習カード) ・ 攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、話したり書き出ししたりしている。	指導に生かす評価 学習カードに種目の特性を書き出せていない生徒に対して、絵図や動画を示す等して、特性の理解を支援します。 記録に残す評価 動きのポイントやつまずきについて、生徒の理解を十分進めた段階で、記述や発言の様子を基に評価します。
2	ボール操作 ドリブル、パス、シュート等	主			
3		技			
4	基礎的技術の習得 課題解決の練習 空間に走り込む等の動き	主	○	[技能②] (観察) ・ フリーの仲間を見付け、相手の動きに合わせてパスを出すことができる。	
5		知	○		
6	課題の確認と解決の練習 簡易ゲーム	思		[主②] (観察) ・ 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。	
7		思			
8	簡易ゲームの修正 最終リーグ戦Ⅰ	技	○		
9		思	○	本時 [思・判・表①] (学習カード、観察) ・ 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。	
10	最終リーグ戦Ⅱ 単元のまとめ	総括的評価			

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

話し合いの場面で、完成技の動画を参考に、仲間の課題や出来映えに対して「ここで~のように動けば」や「もっと仲間と~できれば」等、提示された動きのポイントやつまずきを踏まえて伝えている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

仲間の技について改善箇所を指摘できる等、生徒が自らの気づきを基に他者へ伝える発言や記述を評価します。そのため、目標に到達した姿を教師が具体で例示し、生徒と共有しておくことが大切です。



学習評価で大切にしたいこと

問題解決的な学習と評価

技術分野で目指す資質・能力は、単に何かをつくる活動だけで育成できるものではありません。問題解決的な学習を通して、知識と技能、課題解決力、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養います。知識・技能のみを重視した評価とならないようにすることが大切です。

発達段階に合わせた評価の視点

評価規準を設定する際に参考とする学習指導要領解説は、第3学年を念頭に書かれています。指導する学年が第1学年の場合は、問題を見いだす範囲を生活としたり、解決する際に配慮する視点を、安全性に限定したりして設定するなど、発達段階に合わせた視点で見取ることが必要となります。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す技術分野の「評価の観点及びその趣旨」を確認して評価の基本的な枠組みを捉えます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。

なお、技術分野では、「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右記の「内容のまとめり」（項目）及びその要素を抜き出し、題材の評価規準を作成します。

内容：A 材料と加工の技術

項目：(1)生活や社会を支える材料と加工の技術

※技術・家庭科では項目が「内容のまとめり」となります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、下記のⅠ～Ⅲの内容を全て含め、題材の目標や学習内容等に応じて設定します。

- Ⅰ 粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面）
- Ⅱ 自らの学習の調整（Ⅰの中で自らの学習を調整しようとする側面）
- Ⅲ Ⅰ、Ⅱの学びの経験を通して涵養された、技術を工夫し創造しようとする態度

第1学年 内容「A 材料と加工の技術」

内容Aの項目(1)、(2)、(3)をまとめて一つの題材で指導する際の評価規準の例



題材の
評価規準例

よりよい生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり（Ⅰ）、振り返って改善したり（Ⅱ）して、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている（Ⅲ）。

Point

必要に応じて分野別の評価の観点の趣旨を基に、「内容のまとめり」ごとの評価規準の要素を加える等（下線の部分）、題材の評価規準を設定します。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

基礎的な技術について、その仕組みの理解やそれらに係る技能の習得状況を評価します。技術に関する科学的な原理・法則とともに、技術と生活や社会、環境との関わり及び生活等の場面でも活用できる技術の概念の理解も評価します。

思考・判断・表現

技術を用いて生活や社会における問題を解決するための思考力、判断力、表現力等が育成されたかを評価します。指導する学年や、学習過程の中の位置付けを踏まえ、思考力等の発揮している具体をイメージした上で評価することが大切です。

主体的に学習に取り組む態度

進んで知識及び技能を獲得しようとしていたり、課題を解決しようとしていたりしながら、技術を工夫し創造しようとしているかを評価します。観察以外にレポートや設計図、振り返りカード等の記述や、評価資料のポートフォリオを時系列で比較し、総括して評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」
 実現するために何時間かの指導が必要な目標については、指導の前半で学習状況を見取り、必要な生徒に対して個別の指導を行います。指導の後半で、その目標の実現状況が把握できる段階で記録に残す評価を行います。

2 主体的に学習に取り組む態度の評価
 「生活や社会を支える技術」を理解する場面では、技能を評価する場面が少ないので、「技術による問題の解決」と合わせて複数の学習活動に共通するよう評価規準を整理・統合し、同じ規準で評価することができます。

(例) 第1学年 内容Aの授業

◇ 題材名 材料と加工の技術によって、生活に役立つ整理箱をつくらう

◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、材料と加工の技術と安全な生活や社会とのかかわりについて理解しているとともに、製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検ができる技能を身に付けている。	生活の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、安全な生活や社会の実現を目指して材料と加工の技術を評価し、適切に選択、管理・運用する力を身に付けている。	よりよい生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全20時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
1 2	・3年間の学習の見通しをもつ。 ・社会や生活で使用されている整理棚や小物入れの工夫について調べる。		○		[思・判・表] (レポート) ・材料と加工の技術にこめられた工夫を読み取り、材料と加工の技術の見方・考え方に気付いている。
7 8 9	・設定した課題に基づき、材料の選択や成型の方法を検討し、製作したい製品を構想して必要な図をかき。	○	○	○	[思・判・表] (ワークシート) ・製作品やその構成部品の適切な形状と寸法などの設計を具体化し、表現できる。 [知・技] (設計図) ・製作に必要な図をかき表すことができる。

指導に生かす評価

第6時で得た知識を生かして製作に必要な図をかき第7時では、「努力を要する」状況になりそうな生徒を見取り、必要な支援をしています。

記録に残す評価

第9時で、製作に必要な図をかき表すことができているかを評価規準に照らして評価し記録します。

*例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例【思・判・表】

自らの構想についてワークシートや設計図に具体化し、発表するとともに、互いの構想について使用目的や使用条件などを確認した上で、必要な条件を踏まえて検討し、互いの構想がよりよくなるように意見を述べている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために
 構想図を基に実現可能な設計図をかけているかや、記述している言葉や発言が設計図等を改善するための具体的な内容で表現できているか、生徒の姿のイメージを明確にします。

評価方法の例

- ・自らの構想を記入したワークシートや、それらを具体化した設計図
- ・話し合いの様子等を観察したメモ
- ・互いの構想に対する考えの意見や記述



学習評価で大切にしたいこと

3 学年間を見通した題材計画

家庭分野では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織した**題材**を構成し、分野の目標の実現を目指しています。そのため、3 学年間を見通した題材の計画的な配列が必要です。履修学年を踏まえた題材計画や目標、評価規準を設定しましょう。

実践的・体験的活動と評価

生活の自立に必要な基礎的な知識及び技能は、実践的・体験的な活動を通して生徒が習得します。生徒の発達段階や学習のねらいを考慮して製作、調理等の実習や、観察、実験等、適切な学習活動を設定して評価を行いましょう。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す家庭分野の「評価の観点及びその趣旨」を確認して評価の基本的な枠組みを捉えます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

なお、家庭分野では「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右記の「内容のまとめり」（項目）及び指導事項に関係する部分を抜き出し、題材の評価規準を作成します。

内容：C 消費生活・環境

項目：(2)消費者の権利と責任

※技術・家庭科では項目が「内容のまとめり」となります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、下記のⅠ～Ⅲの内容を含め、家庭分野の目標（3）や学習内容に応じて設定します。

- Ⅰ 粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとすること）
- Ⅱ 自らの学習の調整（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりする中で自らの学習を調整しようとする）
- Ⅲ 実践しようとする態度（生活を工夫し、実践しようとする）

Point

題材の評価規準の作成時には、下線の部分に学習指導要領に示す項目（内容のまとめり）を設定します。

第3学年 内容C (2) 消費者の権利と責任

題材の評価規準例：よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり（Ⅰ）、振り返って改善したりして（Ⅱ）、生活を工夫し創造し、実践しようとしている（Ⅲ）。

3 観点を評価する上での留意点

知識・技能

主に家庭生活に関する内容を取り上げ、生活の自立に必要な基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けているかどうかを、確認テストや実践記録表、実習を通じた行動観察等から評価します。

思考・判断・表現

習得した知識及び技能を活用し、家族・家庭や地域における生活の課題を主体的に捉え、具体的な実践活動を通して課題を解決する力が養われたかを問題解決的な学習の中で評価します。一連の学習過程の場面を捉え、自分の考えの根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明できるかを記述内容や発言等から判断します。

主体的に学習に取り組む態度

よりよい生活の実現に向けて、知識及び技能を活用しているか、考え工夫しているか、実践しようとしているかを評価します。題材のまとめりの中で事前に評価時期を定め、ポートフォリオや実践記録表等の記述や行動観察等から評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価とは

努力を要すると判断される生徒への支援と手立てを考えるための評価です。例えば、図や写真のヒントカードを示したりワークシート等で学びを振り返る等、個に応じた指導を工夫することが大切です。

2 問題解決的な学習の中で評価場面を位置付ける

家庭分野では、実生活との関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れて目指す資質・能力を育成します。問題解決的な学習の中で、生活の自立に必要な知識及び技能の習得や課題を解決する力が養われたか等を評価できる場面を精選し、位置付けましょう。

(例) 第3学年 内容C (2)消費者の権利と責任 の授業

◇ 題材名 私たちの消費生活

◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	①自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全6時間)

時	主な学習活動	重点	記録	2 評価規準・評価方法	指導に生かす評価
1	・自分や家族の消費生活に関心を持ち、自分の消費行動の課題に気付く。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・自分の消費行動について問題を見いだして課題を設定している。	題材の前半で、持続可能な社会の構築等の視点から、適切な選択、購入について考えがもちにくい生徒を把握し、個別の支援に生かすための評価です。
3	・身近な商品の選択、購入場面を取り上げ、適切な選択、購入とはどんなことに気を付ければよいかを考える。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・商品の適切な選択、購入について考え、工夫している。	
4	・消費者被害の背景を知り、その対応について理解する。	知	○	[知・技①] (ワークシート) ・消費者被害の背景とその対応について理解している。	
5	・消費者の権利と責任について理解し、消費者として自覚ある行動について考える。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・消費者として自覚ある行動について考えている。	記録に残す評価 題材の後半で、目標とした力が身に付いているか記述内容から評価し、総括に生かします。
6	・商品の適切な選択、購入とはどんなことに気を付ければよいかを考える。	思 主	○ ○	[思・判・表①] (ワークシート・観察) ・商品の適切な選択、購入について工夫している。 [主①] (ワークシート・観察) ・よりよい消費生活について工夫し創造し、実践しようとしている。	

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準がより具体的になった生徒の姿 [思・判・表①]

商品の選択や購入について、既習の消費者被害や消費者の権利と責任のことを踏まえて具体的な工夫を記述 (例：環境への配慮から詰め替え用商品を選択する) している。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

- ・生徒が、実感を伴って理解したことが具体的に記述できるように実践的・体験的な活動を実施する。
- ・事前に予想される生徒の考えや工夫を複数予想する。

評価方法の例

- ・実習に関する計画や、考え工夫したことを記録した実践記録表
- ・実験や実習時の行動観察



学習評価で大切にしたいこと

目標・指導・評価の一体化

ゴール（身に付けさせたい資質・能力）を生徒と共有しましょう。達成した姿を具体化して目標を設定し、その力を育成するために言語活動を通して指導を行い、評価します。

多面的・多角的な評価

ペーパーテスト（定期考査や単元テスト、言語活動の際に用いるワークシート等）や、パフォーマンステスト（スピーチやインタビュー、ディスカッション等）、活動の観察等により評価を行います。

評価の観点及びその趣旨

外国語科における「内容のまとまり」は、五つの領域（聞く、読む、話す〔やり取り、発表〕、書く）であり、領域別に3観点で評価します。「教科目標」「内容のまとまりごとの評価規準」等に基づき、各学校が生徒の実態等に応じて「学年ごとの目標」を設定した上で、「単元ごとの評価規準」を作成します。下記に示す「評価の観点及びその趣旨」も合わせて確認します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」については、「知識・技能」「思考・判断・表現」で重点とする内容を踏まえた上で、「粘り強さ」「自らの学習の調整」の二つの面から評価します。外国語科では、基本的に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は「思考・判断・表現」の評価規準と一体的に設定します。

「話すこと〔やり取り〕ウ」 第3学年

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由等を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。



単元の 評価規準例

聞き手に伝わるように、伝統文化についての意見文を読んで、自分の考え、気持ち等を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

Point

評価規準は、各領域の「基本的な形」を参考にして作成することができます。左記の〔やり取り〕では、「【目的等】に応じて、【話題・事柄】について読んで、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。」が「基本的な形」として例示されています。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているかを「知識」として評価します。実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、日常的话题や社会的な話題について、自分の考え等を簡単な語句や文を用いて表現できる力を身に付けているかを「技能」として評価します。

思考・判断・表現

コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、話したり書いたり表現したり伝え合ったりしている状況や、話されたり書かれたりする文章等から聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点等を捉えている状況の評価します。

主体的に学習に取り組む態度

左記の〔思・判・表〕で示すことを「しようとしている」状況の評価します。また、資質・能力を生徒と共通理解し、言語活動の振り返りで、自らの成果や課題、次への目標を明らかにさせ、その取組状況を継続的に見取ることも大切です。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 記録に残す評価を補完

記録に残す評価場面のない授業においても、指導改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を継続的に確認し、単元や学期末の評価を決定する際の参考にしていくことが大切です。

2 観点のバランスとパフォーマンステストによる評価

単元の中で3観点5領域を評価する場面を設定します。確実に全員分の記録を残すために、学期末等にペーパーテストやパフォーマンステストを実施します。授業中の活動の観察、振り返りやワークシートの記述内容も加味し、評価を決定します。

(例) 第3学年 「話すこと [やり取り]」の授業 ◇ 単元名 日本の伝統文化に関する英文を読み、引用しながら自分の考えや気持ちを伝え合おう
◇ 単元の評価規準 「話すこと [やり取り]」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①現在完了について理解し、やり取りの中で適切に使っている。伝統文化について読み、自分の考え、気持ち等を現在完了等を用いて述べ合っている。	①聞き手に伝わるように、伝統文化についての意見文を読んで、自分の考え、気持ち等を、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。	①聞き手に伝わるように、伝統文化についての意見文を読んで、自分の考え、気持ち等を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全8時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
4	・現在完了を扱った対話文を読み、英文を引用する等しながら、考えたことや感じたこと等を伝え合う。	1 主 (知)		[主①] (活動の観察) ・適切に英文を引用しながら、やり取りを継続する等して、自分の考えを伝え合おうとしている。
6	・現在完了を扱った教科書とは別の対話文や文章を読み、引用しながら考えたことや感じたことをペアで伝え合う。	2 思		[思・判・表①] (活動の観察) ・英文を引用しながらやり取りを継続する等して、自分の考えを伝え合っている。
7	・ピクチャー・カードを使い、現在完了を正しく引用しながら、教師やALTに教科書の内容について説明する。	知	○	[知・技①] (活動の観察、ワークシート点検) ・現在完了を正しく用いて、教科書の内容を説明している。
8	・初見の文章を読み、英文を引用する等しながら、考えたこと、その理由等を伝え合う。 ・ペアで話した内容を踏まえ、自分の考え等を書く。	知 思 主	○	[思・判・表①] (活動の観察) ・初見の英文を引用しながら、やり取りを継続する等して、自分の考えを伝え合っている。 ※確実に全員分の記録を残すために、後日パフォーマンステストを行う。

指導に生かす評価

生徒の英語での言語活動(やり取り)の状況を見取ることが大切です。

記録に残す評価

単元末の言語活動を観察し、第8時の観察の結果を本課の評価情報として極力記録に残すようにします。

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

伝統文化について書かれた初見の文章を読み、現在完了形を用いた英文を引用しながら、やり取りを継続する等して、聞き手に伝わるように、自分の考えを伝え合っている。

Point

【やり取り】の見取り方

教師が1時間で全ての生徒のやり取りを見取るとは現実的ではありません。パフォーマンステストで確実に見取り、記録に残すことを目指しますが、単元の最終時でも極力見取りを行い、記録します。ペアを替えたり、TTで実施したり等、見取りの機会を増やし観察を行います。

特定の言語材料の使用の見取りについて

パフォーマンステストや単元の最終時で、[知・技]の評価規準に関して、特定の言語材料の使用が見られなかった場合、それまでの観察結果を加味することが考えられます。条件を揃えた上でやり取りを観察することは難しい場合もあるので、記録を補完できる場面を設けておくと安心です。



学習評価で大切にしたいこと

学校全体における評価体制の確立

特別活動は、全校または学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多いです。各学校で生徒一人一人の活動状況を把握し共有できる評価体制を確立し、共通理解を図って、子供たちのよさや可能性を多面的・総合的に評価できるようにすることが大切です。

指導改善につながる評価の実施

評価を通じて、生徒への指導だけでなく教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるような工夫改善を図ることが大切です。

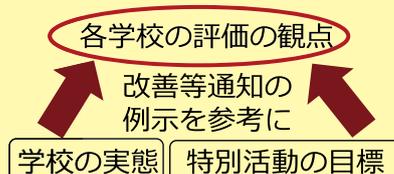
評価の観点及びその趣旨

特別活動は、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者である各教育委員会ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。下記に示す「評価の観点及び趣旨」は、各学校において評価の観点を設定する際の参考になります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己の実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

Point 各学校において評価の観点を設定

評価の観点は、学校の実態、学習指導要領の特別活動の目標を踏まえ、改善等通知の例示を参考に各学校で設定します。その際、社会参画等、学校として重点化を図った内容を踏まえた評価の観点になるようにするため、校内研修等で協議する場を設け、全職員で共通理解を図ります。



「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

特別活動における「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成します。

- I 粘り強さ（例：粘り強く、積極的に、進んで 等）
- II 自らの学習の調整（例：見通しをもったり振り返ったりして 等）
- III 自己のよさや可能性等を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度

Point

学習指導要領解説に示されている目指す資質・能力の例示を参考に、自校として目指す資質・能力を設定し、評価規準を作成します。

「学級活動（2） 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を進んで（I）形成しようとしている。
他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったり（II）しながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。
将来にわたって自他の健康で安全な生活を構築しよう（III）としている。

Point

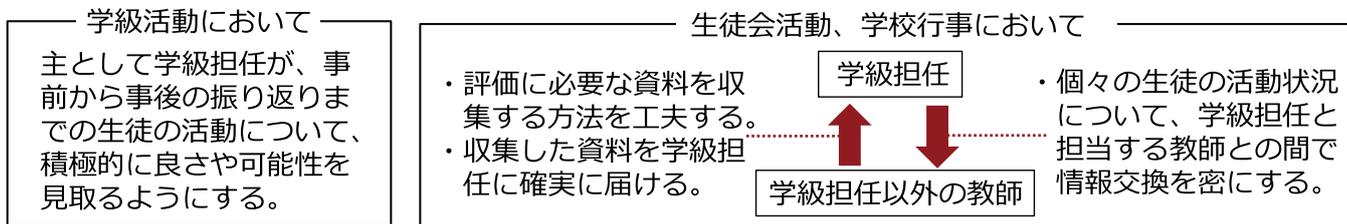
期間を定めて振り返りの場を設定し、「主体的に学習に取り組む態度」を見取る

学級活動（2）の評価は、自己の課題の解決方法について意思決定したことを実践できているか、事後の実践の期間を例えば一週間程度で振り返り、「振り返りカード」等を活用して努力や成果の足跡を残すようにします。それらの記述を評価の参考にし、粘り強く実践する態度等について評価を行います。生徒会活動や学校行事においても同様に振り返りの場を設定し、活動のまとめをしたり発表し合ったりする活動を見取り、評価を行います。

学習評価における留意点

評価体制の確立

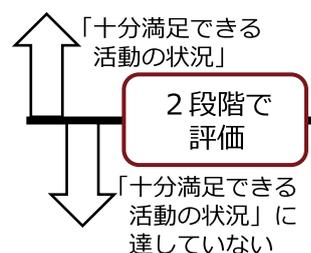
特別活動は、全校または学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多くあります。そのため、各学校において評価体制を確立し、共通理解を図りながら評価することが大切です。



「十分満足できる活動の状況」を2段階で評価

特別活動における「十分満足できる活動の状況」は、2段階で評価を行います。その際、学級活動ファイルにおける事前の意見や実践後の振り返り等の記述を参考にしたり、話し合いや実践の様子を観察したりしながら機会を捉えて評価することが大切です。

また、各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を指すのかを話し合い、全職員で共通理解を図っておくことが重要です。



観点別学習状況の評価の総括

各活動では学期や年間を通して一覧で確認できる評価補助簿を活用すると、事実に基づいて評価の総括ができます。

〈学校行事における評価補助簿の例〉

番号	名前	知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
1	A	○	○	○	9/13 体育会に向けて 自分にあつためあてを立てている。	○
2	B		○	○	9/20 文化祭に向けて 互いのよさを生かすために自分には何ができるか考えることができた。	
3	C		○○	○○	9/20 文化祭に向けて 進んでよりよい合唱をつくろうと、学級みんなに声掛けを行うことができた。	○

一連の学習過程を通して、メモ欄にその生徒の様子を記述しながら、その都度「十分満足できる活動の状況」の場合、機会を捉えて評価し、観点別に○を付けます。また、総括して○を付ける際は、学校で方法を統一しておくことが必要です。

生徒指導要録における特別活動の記録

【中学校生徒指導要録（参考様式）様式2の観点の記入例】

特別活動の記録					
内容	観点	学年			
		1	2	3	
学級活動	集団や社会に参画するための知識・技能 協働してよりよい生活や人間関係を築くための 思考・判断・表現				
生徒会活動					
学校行事	余白				

各学校で定めた評価の観点を指導要録に記入した上で、各活動・学校行事ごとに、十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に○を記入します。

左の例では「特別活動における資質・能力の視点を基に重点化を図った例」を記入していますが、各学校で定めた観点を記入します。

観点の下は、変更がある場合を想定して余白をとっておきます。



学習評価で大切にしたいこと

各学校で総合的な学習の時間の目標を定める意味

各学校の置かれている状況、実態は様々です。各学校が、児童生徒に育てたいと願う資質・能力を具体的に描き、言葉にすることが求められています。小学校は中学校との接続、中学校は義務教育の最終段階であることを意識して、目標を定めることが大切です。

学習活動を探究のプロセスとする

学習活動を①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の一連の探究のプロセスとします。児童生徒が主体的に探究のプロセスを繰り返すことができるような単元を構想し、資質・能力の育成につなげていくことが大切です。

学校において定める目標・内容の設定と学習評価

学習指導要領には、どの学年で何を指導するのかという内容が明示されていません。そこで、各学校は学習指導要領が定める目標を踏まえ、**各学校の総合的な学習の時間の目標及び内容**、評価の観点の趣旨を定めます。総合的な学習の時間では各学校が定めた「内容」がそのまま「内容のまとめり」となります。目標の達成状況を判断するための「内容のまとめりごとの評価規準」は、「内容のまとめり」に記載した文章を活用し、妥当性のある評価のよりどころとします。

各学校における総合的な学習の時間の単元作成までを、次の **STEP 1** ～ **STEP 5** の手順で説明します。

学習指導要領の「第1の目標」

各学校における教育目標

各学校において定める目標

「第1の目標」の二つの基本的な考え方

- ・ 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して
- ・ よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す

(1) 知識及び技能

(2) 思考力、判断力、表現力等

(3) 学びに向かう力、人間性等

「第1の目標」の構成に従い、以下の二つを踏まえて適切な分量で記載する。

- ① 「第1の目標」に示された二つの基本的な考え方
- ② 育成すべき資質・能力の三つの柱である(1)～(3)の趣旨

STEP 1

「第1の目標」と「各学校における教育目標」から、**各学校の総合的な学習の時間の目標**を定める。

Point

各学校が大切にしたいことを、目標の要素のいずれかを具体化、重点化したり、別の要素を付け加えたりして、分かりやすい表現で盛り込み、校内で議論を尽くし共有することが大切です。

STEP 2

各学校で定めた目標のうち、(1)～(3)の記載の文末表現を変えて「評価の観点の趣旨」を作成する。

各学校の「評価の観点の趣旨」を作成

STEP 3

各学校で定めた目標と評価の観点の趣旨を踏まえて、**各学校の総合的な学習の時間の内容**を定める。

各学校において定める内容（＝「内容のまとめり」）

目標を実現するにふさわしい探究課題

探究課題の解決を通して育成を目指す
具体的な資質・能力

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

* 他の教科はここまでが示されている

STEP 4

各学校で定めた内容をそのまま「内容のまとめり」とし、具体的な資質・能力のそれぞれの記載の文末表現を変えて「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

STEP 5

内容から単元の目標と単元の評価規準を作成し、授業を実施する。

単元

単元の評価規準の作成のポイント

ここでは前頁の **STEP 5** の詳細を述べます。単元の評価規準の作成に当たっては、各学校で定めた目標及び内容を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成された**単元の目標**を定めることが大切です。

単元の目標は、どのような学習を通して、児童生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確に表現したものであり、単元の目標から単元の評価規準を作成します。以下に事例を示します。

事例：小学校第6学年「地域の絆を再生しよう」

◇ 単元の目標（例）

少子高齢化や核家族化を背景に、さみしさを抱えながら暮らす高齢者の孤独の解消に向けて活動することを通して、（学習対象に関する記載）

高齢者の暮らしを支える取組や人々の思いに気付き、（知識及び技能に関する記載）

高齢者の暮らしを支える「地域の茶の間（地域の人々が集い交流できる場）」の在り方について考えるとともに、（思考力、判断力、表現力等に関する記載）

学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。（学びに向かう力、人間性等に関する記載）

◇ 単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〔設定例〕 ・高齢者とその暮らしについて学んだことが自分の生活と深く関わっていることを理解している。 ・「地域の茶の間」を開催したり、モデルケースを調査・体験したりして収集した情報と情報との関係について、図や文章でまとめる方法が分かっている。等	〔設定例〕 ・高齢者の孤独解消のために必要な情報を、手段を選択して収集している。 ・伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。等	〔設定例〕 ・活動を通して、自分と身の回りの高齢者との関わりを見直そうとしている。 ・課題解決の状況を振り返り、あきらめずに高齢者の孤独の解消に向けて取り組もうとしている。等
Point 実際の探究的な学習場面を想起し、単元の目標に示した資質・能力をより明確にして評価規準とします。設定例のように、各観点に即して実現が期待される児童生徒の姿をイメージして、明示します。		

学習活動の展開においては、目標の資質・能力が育成されるように、児童生徒が自ら課題を解決する過程を想定して、各教科のように指導と評価の計画を立てます。指導と評価の計画に従って授業を実施する中で、教師が予想しなかった望ましい活動が児童生徒から提案される場合等も考えられます。そのような場合は、学校が定めた目標と照らし合わせ、適宜計画を見直す等、柔軟性や弾力性をもつことも大切です。

総合的な学習の時間の学習評価のポイント

総合的な学習の時間における児童生徒の学習状況の適切な評価のために、次の点に留意する必要があります。

信頼される評価のために	多面的な評価のために	学習状況の過程を評価するために
・指導する教員間において、評価の観点や評価規準を確認する。 ・年間や、単元等の内容のまとめを通して一定程度の時間数の中において評価を行う。等	・発表の表現による評価、ポートフォリオを活用した評価等、多様な評価方法を組み合わせる。 ・成果物の出来映えをそのまま評価するのではなく、どのような探究の過程を通して学んだのかを見取る。等	・評価を学習活動の終末だけでなく、事前や途中に適切に位置付けて実施する。 ・一人一人が学習を振り返る機会を適切に設け、個人として育まれるよい点や進歩の状況を評価する。等

Point 指導要録においては、総合的な学習の時間に行った「学習活動」及び各学校が定めた評価の「観点」を記入します。そして、その観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合等にその特徴を記入する等、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述します。

学習活動	観 点	評 価
地域の絆を再生しよう	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	地域の高齢者とその暮らしについて、理想と現実との隔たりから課題を設定し、解決に向けて学級で取り組む「地域の茶の間」の提案を行った。

指導要録（「学習活動」「観点」「評価」）の記載例

学習評価で大切にしたいこと

学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価

授業における学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価します。道徳性そのものを評価することはできません。また、教師は指導のねらいや内容に照らして児童生徒の学習状況を把握し、授業改善に生かすことが児童生徒の道徳性を養うことにつながります。

個人内評価として記述による評価

個人内評価は他者との比較によるものではないため、個人の伸びや努力を認めやすくなります。児童生徒が自らの成長を実感して、より意欲的に学習へと向かうための評価です。また、道徳性を養うことを目標とする道徳科では、観点別状況評価や数値ではなく、記述で評価を行います。

指導と評価の一体化

道徳科の評価は、道徳性を養う学習活動に着目して、その学習状況や児童生徒の成長の様子を見取るものです。そのため教師は学習指導の過程で、期待する学習状況を具体的な姿として明確にもち、評価の視点とすることが必要です。道徳科では、自己や人間としての生き方について考えを深めるために、特に次の二つを重視します。

- ①道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
- ②一面的な見方から、多面的・多角的な見方へと発展しているか

学習活動の中で、児童生徒の努力や成長等が見られた場合は、積極的に受け止め、認め励まして次の成長へとつなげます。また、期待する児童生徒の姿が見られなかった場合は授業を見直し改善を図ります。これが道徳科における「指導と評価の一体化」です。

学習評価の進め方

学習評価を進めるに当たっては、評価の妥当性や信頼性を保つため、児童生徒の学びの姿を多面的に見取った評価情報を収集・蓄積し、根拠とすることが必要です。また、蓄積した資料は、児童生徒の更なる成長のために、通知表や指導要録等にどのように記述するのかという方向性を、校内で検討・共有することも大切です。

【道徳科の授業】

- ・道徳ノートやワークシート、発言や発話、表現活動等の評価方法を組み合わせ、児童生徒の変容を捉える。
- ・ファイリング、ポートフォリオ、エピソード記録等で評価情報を蓄積する。
- ・一単位時間ではなく、学期や学年等、一定の期間のまとまりで学習状況や成長の様子を評価する。

【通知表や個人面談等】

- ・授業の中で見られた学習状況を具体的に記載したり、伝達したりすることで、児童生徒や保護者に成長の様子が伝わるようにする。
- ・成長の様子を児童生徒や保護者と共有することで、学習意欲の向上や学習改善につなげる。

【指導要録】

- ・年間を通しての児童生徒の学習状況や成長の様子を、蓄積した評価資料を根拠に記載する。
- ・記載した事項は、一人一人の成長の過程を校内で共通理解する資料として活用し、次年度へ引き継ぎ、教師の指導に生かす。

Point

適切な評価を行うために

小学校において

児童を伸ばす評価はどのようなものかについて、校内で検討し、各担任が進めている学習評価の情報交換をしたり、成長が見られた児童の姿を共有したりする等、改善につなげていきましょう。

中学校において

指導要録等により小学校の学習状況を引き継ぎ、指導に生かします。また、自分の生き方を振り返り、人間としての生き方への「考えの深まり」が評価できるような授業づくりが重要です。

<参考資料> 指導要録（指導に関する記録）の記載事項

指導要録の記載に当たっては、設置者である各教育委員会の定めた様式及び指導に沿って行います。

ここでは、『小学校児童（中学校生徒）指導要録の記載に関するガイドライン』（岡山県教育庁義務教育課、令和元年12月3日付け、義指第409号）等を参考にして、小学校の県参考様式を基に説明をします。中学校においては、記載事項の違いに注意してください。

1 各教科の学習の記録

観点別学習状況及び評価について記入します。

<観点別学習状況>

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、記入します。

【小学校・中学校】

- 「十分満足できる」状況と判断されるもの … A
- 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの … B
- 「努力を要する」状況と判断されるもの … C

<評価>

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総合的に評価し記入します。

【小学校】※第3学年以上のみ

- 「十分満足できる」状況と判断されるもの … 3
- 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの … 2
- 「努力を要する」状況と判断されるもの … 1

【中学校】

- 「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの … 5
- 「十分満足できる」状況と判断されるもの … 4
- 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの … 3
- 「努力を要する」状況と判断されるもの … 2
- 「一層努力を要する」状況と判断されるもの … 1

【関連する頁】 P3「学習評価の基本的な考え方」

2 特別の教科 道徳

学習活動における児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を個人内評価として文章で端的に記述します。

【関連する頁】 P57「特別の教科 道徳（小・中学校）」

3 外国語活動の記録

小学校のみ

改善等通知（※）を参考に設置者が設定した評価の観点を記入した上で、それらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述します。

※改善等通知；「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（文部科学省初等中等教育局、平成31年3月29日付け、30文科初第1845号）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を通して、言語文化について体験的に理解を深めている。 ・日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。 ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

改善等通知における「小学校外国語活動 評価の観点及びその趣旨」

4 総合的な学習の時間の記録

総合的な学習の時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合等にその特徴を記入する等、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述します。評価の観点については、学習指導要領に示す目標を踏まえ、学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて改善等通知を参考に定めます。

【関連する頁】 P55「総合的な学習の時間（小・中学校）」

小学校児童指導要録 県参考様式 様式2（指導に関する記録）表

児童氏名		学校名		区分		学年		1		2		3		4		5		6		
1 各教科の学習の記録										2 特別の教科 道徳										
国語	知識・技能	1	2	3	4	5	6	国語	知識・技能	1	学習状況及び道徳性に係る成長の様子									
	思考・判断・表現								思考・判断・表現		全教科を3観点に統一									
	主体的に学習に取り組む態度								主体的に学習に取り組む態度		従前様式とは違い、観点別学習状況の下段に記入									
社会	知識・技能							社会	知識・技能											
	思考・判断・表現								思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								主体的に学習に取り組む態度											
算数	知識・技能							算数	知識・技能											
	思考・判断・表現								思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								主体的に学習に取り組む態度											
理科	知識・技能							理科	知識・技能											
	思考・判断・表現								思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								主体的に学習に取り組む態度											
生活	知識・技能							生活	知識・技能											
	思考・判断・表現								思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								主体的に学習に取り組む態度											
音楽	知識・技能							音楽	知識・技能											
	思考・判断・表現								思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								主体的に学習に取り組む態度											
図画工作	知識・技能							図画工作	知識・技能											
	思考・判断・表現								思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								主体的に学習に取り組む態度											
家庭	知識・技能							家庭	知識・技能											
	思考・判断・表現								思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								主体的に学習に取り組む態度											
体育	知識・技能							体育	知識・技能											
	思考・判断・表現								思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								主体的に学習に取り組む態度											
外国語	知識・技能							外国語	知識・技能											
	思考・判断・表現								思考・判断・表現											
	主体的に学習に取り組む態度								主体的に学習に取り組む態度											
3 外国語活動の記録										4 総合的な学習の時間の記録										
5 特別活動の記録																				
特別活動の記録																				

5 特別活動の記録

学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点到照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入します。評価の観点については、学習指導要領に示す目標を踏まえ、学校において改善等通知を参考に定めます。

【関連する頁】 P31「小学校特別活動」 P53「中学校特別活動」

6 行動の記録

各教科、道徳科、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童生徒の行動について評価します。学習指導要領の総則及び道徳科の目標や内容、内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえて示している改善等通知を参考に、各項目の趣旨（次頁に小学校・中学校の「行動の記録」の評価項目及びその趣旨の一覧を紹介しています。）に照らして**十分満足できる状況**にあると判断される場合に、○印を記入します。

行動の記録の10の項目

「基本的な生活習慣」「健康・体力の向上」「自主・自律」「責任感」「創意工夫」「思いやり・協力」「生命尊重・自然愛護」「勤労・奉仕」「公正・公平」「公共心・公徳心」

また、特に必要があれば、学校が自らの教育目標に沿って項目を追加して記入することもできます。

Point

行動の記録における「十分満足できる状況」は、評価項目及びその趣旨を踏まえ、何か一つの姿を示して満足できる状況かどうかを評価するのではなく「十分満足できる」状況を児童生徒の具体的な姿として多様に示し、校内で共有した上で評価することが必要です。

小学校児童指導要録 県参考様式 様式2（指導に関する記録）裏

児童氏名															
6 行動の記録															
項目	学年	1	2	3	4	5	6	項目	学年	1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								公正・公平							
創意工夫								公共心・公徳心							
7 総合所見及び指導上参考となる諸事項															
第1学年												第4学年			
第2学年												第5学年			
第3学年												第6学年			
8 出欠の記録															
区分	授業日数	出席停止・忌引等の日数	出席しない日数	欠席日数	出席日数	備考									
学年															
1															
2															
3															
4															
5															
6															

7 総合所見及び指導上参考となる諸事項

児童生徒の成長の状況を総合的に捉えるため、以下の事項等を文章で箇条書き等により端的に記述します。特に⑤のうち、児童生徒の特徴・特技や学校外の活動等については、今後の学習指導等を進めていく上で必要な情報に精選して記述します。

総合所見及び指導上参考となる諸事項について

- 各教科や外国語活動（小学校）、総合的な学習の時間の学習に関する所見
- 特別活動に関する事実及び所見
- 行動に関する所見
- 進路指導に関する事項
- 児童生徒の特徴・特技、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項
- 児童生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては、児童生徒の優れている点や長所、進歩の状況等を取り上げることに留意します。ただし、児童生徒の努力を要する点等についても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば端的に記入します。

さらに、障害のある児童生徒や日本語の習得に困難のある児童生徒のうち、通級による指導を受けている児童生徒については、通級による指導を受けた学校名、通級による指導の授業時数、指導期間、指導の内容や結果等を端的に記入します。通級による指導の対象になっていない児童生徒で、教育上特別な支援を必要とする場合については、必要に応じ、効果があったと考えられる指導方法や配慮事項を端的に記入します。

Point

指導要録における文章記述欄については、例えば、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」については要点を箇条書きとする等、必要最小限のものにとどめ、精選して記述します。

文章記述により記載される事項は、児童生徒本人や保護者に適切に伝えられることで初めて児童生徒の学習の改善に生かされるものです。

児童生徒へは、日常の指導の場面で評価についてのフィードバックを行う機会をつくり、充実させることが大切です。また、保護者とも、通知表や面談等の機会を通して、評価を通して学習改善につながる情報共有につとめることが大切です。

8 出欠の記録

授業日数、出席停止・忌引等の日数、出席しなければならない日数、欠席日数、出席日数、備考の事項を記入します。

「行動の記録」の評価項目及びその趣旨

『小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）』（文部科学省初等中等教育局、平成31年3月29日付け、30文科初第1845号）で示された「行動の記録」の評価項目及びその趣旨を示します。

小学校

項目	趣旨
基本的な生活習慣	(第1・2学年) 安全に気を付け、時間を守り、物を大切にし、気持ちのよいあいさつを行い、規則正しい生活をする。 (第3・4学年) 安全に努め、物や時間を有効に使い、礼儀正しく節度のある生活をする。 (第5・6学年) 自他の安全に努め、礼儀正しく行動し、節度を守り節制に心掛ける。
健康・体力の向上	(第1・2学年) 心身の健康に気を付け、進んで運動をし、元気に生活をする。 (第3・4学年) 心身の健康に気を付け、運動をする習慣を身に付け、元気に生活をする。 (第5・6学年) 心身の健康の保持増進と体力の向上に努め、元気に生活をする。
自主・自律	(第1・2学年) よいと思うことは進んで行い、最後までがんばる。 (第3・4学年) 自らの目標をもって進んで行い、最後までねばり強くやり通す。 (第5・6学年) 夢や希望をもってより高い目標を立て、当面の課題に根気強く取り組み、努力する。
責任感	(第1・2学年) 自分でやらなければならないことは、しっかりと行う。 (第3・4学年) 自分の言動に責任をもち、課せられた役割を誠意をもって行う。 (第5・6学年) 自分の役割と責任を自覚し、信頼される行動をする。
創意工夫	(第1・2学年) 自分で進んで考え、工夫しながら取り組む。 (第3・4学年) 自分でよく考え、課題意識をもって工夫し取り組む。 (第5・6学年) 進んで新しい考えや方法を求め、工夫して生活をよりよくしようとする。
思いやり・協力	(第1・2学年) 身近にいる人々に温かい心で接し、親切にし、助け合う。 (第3・4学年) 相手の気持ちや立場を理解して思いやり、仲よく助け合う。 (第5・6学年) 思いやりと感謝の心をもち、異なる意見や立場を尊重し、力を合わせて集団生活の向上に努める。
生命尊重・自然愛護	(第1・2学年) 生きているものに優しく接し、自然に親しむ。 (第3・4学年) 自他の生命を大切にし、生命や自然のすばらしさに感動する。 (第5・6学年) 自他の生命を大切にし、自然を愛護する。
勤労・奉仕	(第1・2学年) 手伝いや仕事を進んで行う。 (第3・4学年) 働くことの大切さを知り、進んで働くようにする。 (第5・6学年) 働くことの意義を理解し、人や社会の役に立つことを考え、進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	(第1・2学年) 自分の好き嫌いや利害にとらわれないで行動する。 (第3・4学年) 相手の立場に立って公正・公平に行動する。 (第5・6学年) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく、正義を大切に、公正・公平に行動する。
公共心・公德心	(第1・2学年) 約束やきまりを守って生活し、みんなが使うものを大切に使う。 (第3・4学年) 約束や社会のきまりを守って公德を大切に、人に迷惑をかけないように心掛け、のびのびと生活する。 (第5・6学年) 規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国や郷土の伝統と文化を大切に、学校や人々の役に立つことを進んで行う。

中学校

項目	趣旨
基本的な生活習慣	(全学年) 自他の安全に努め、礼儀正しく節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
健康・体力の向上	(全学年) 活力ある生活を送るための心身の健康の保持増進と体力の向上に努めている。
自主・自律	(全学年) 自分で考え、的確に判断し、自制心をもって自律的に行動するとともに、より高い目標の実現に向けて計画を立て根気強く努力する。
責任感	(全学年) 自分の役割を自覚して誠実にやり抜き、その結果に責任を負う。
創意工夫	(全学年) 探究的な態度をもち、進んで新しい考えや方法を見付け、自らの個性を生かした生活を工夫する。
思いやり・協力	(全学年) だれに対しても思いやりと感謝の心をもち、自他を尊重し広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする。
生命尊重・自然愛護	(全学年) 自他の生命を尊重し、進んで自然を愛護する。
勤労・奉仕	(全学年) 勤労の尊さや意義を理解して望ましい職業観をもち、進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	(全学年) 正と不正を見極め、誘惑に負けることなく公正な態度がとれ、差別や偏見をもつことなく公平に行動する。
公共心・公德心	(全学年) 規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国の伝統と文化を大切に、国際的視野に立って公共のために役に立つことを進んで行う。



令和元年度 岡山県総合教育センター所員研究
(共同研究；教科教育)
『新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価』研究委員会

指導・助言

村上 尚徳 環太平洋大学 副学長

研究委員

藤原 敬三 教科教育部長

鈴木 隆幸	教科教育部指導主事
平田 朝一	教科教育部指導主事
岩佐奈津子	教科教育部指導主事
久次 正浩	教科教育部指導主事
大辻慎一郎	教育経営部指導主事
嶋村 尚美	教科教育部指導主事
小倉 馨	教育経営部指導主事
谷岡 奈央	教科教育部指導主事
室川 基	教科教育部指導主事
谷本 薫彦	教科教育部指導主事
桐野 隆江	教科教育部指導主事
末澤 元浩	教科教育部指導主事
難波 玄	教科教育部指導主事
伊藤 昌訓	教科教育部指導主事

令和2年2月発行
『新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価』
【編集兼発行所】 岡山県総合教育センター
〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL : (0866) 56-9101 FAX: (0866) 56-9121
URL : <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>
E-mail : kyoikuse@pref.okayama.lg.jp

新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価



©岡山県マスコット
ももっちとつらっち

◆ 平成29年3月に公示された新学習指導要領の学習評価のポイントを「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価」で一冊にまとめました。

校内研修や授業研究の際に、本冊子を使って共通理解を図ったり、改善の方向や視点を見付けたりしていただき、授業づくりと学習評価に、ぜひご活用ください。

令和2年2月 岡山県総合教育センター

